

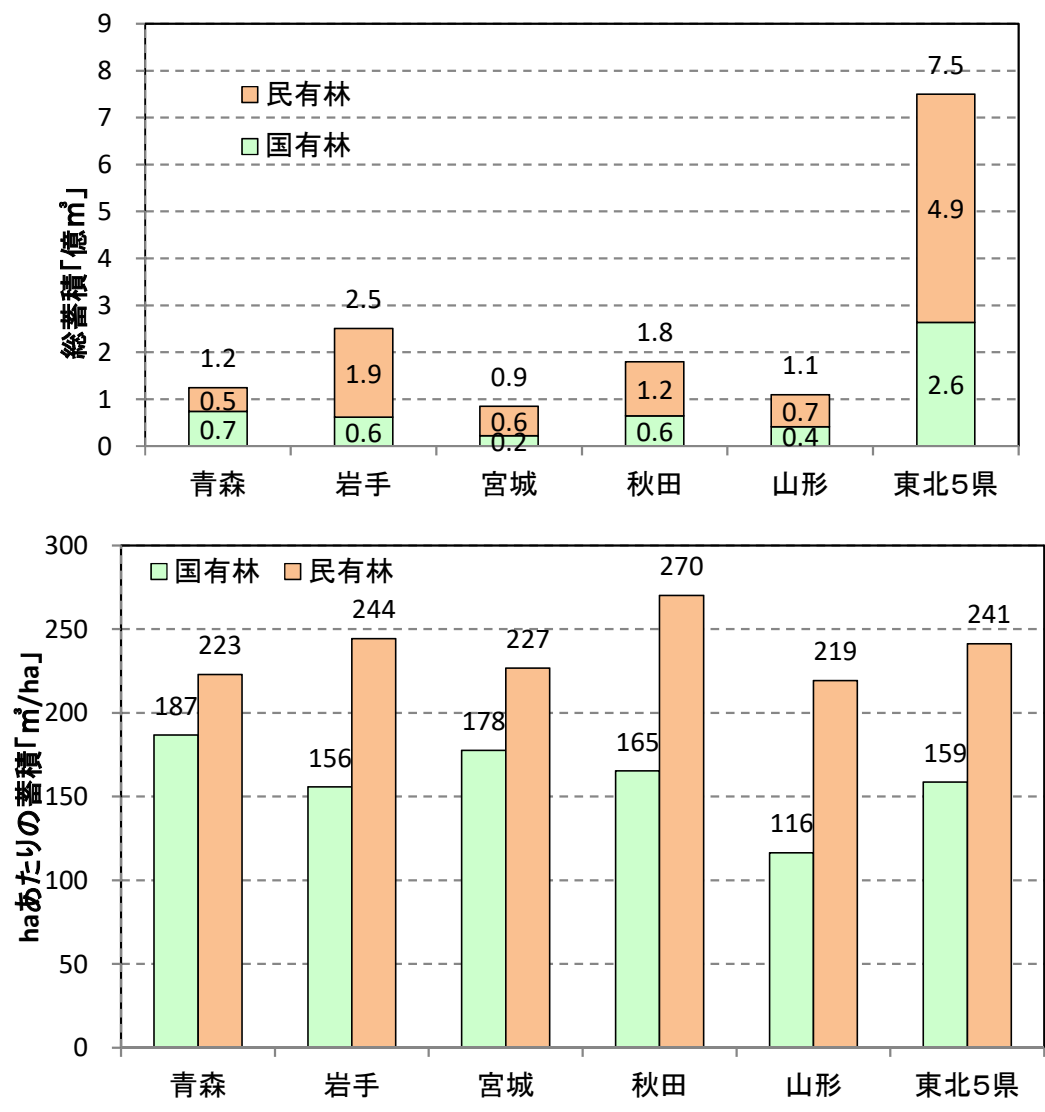
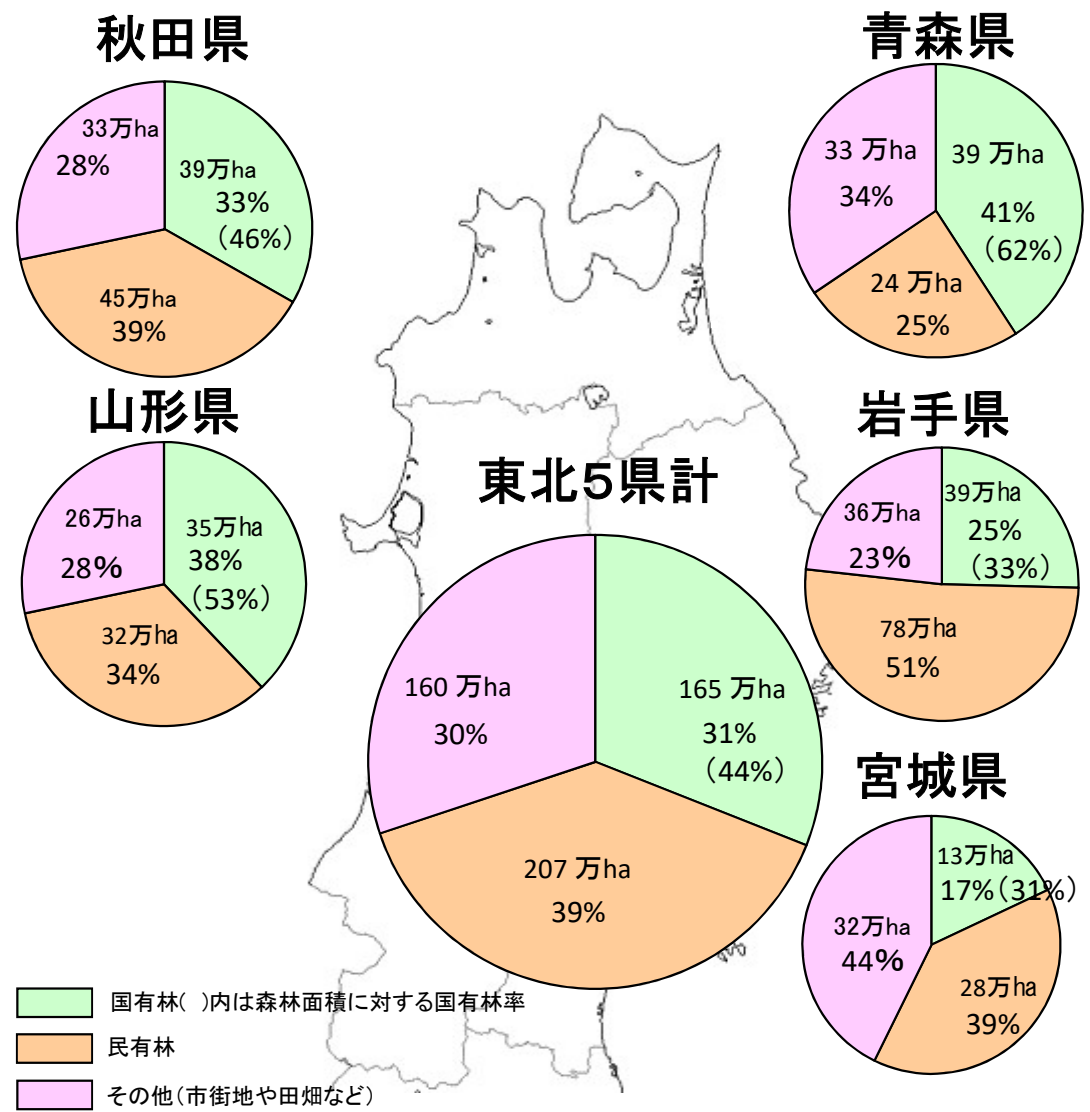
東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

令和4年6月16日(木)

東北森林管理局

■ 東北森林管理局管内5県の森林面積及び森林蓄積量

○ 管内東北5県の蓄積量は約7.5億m³で、全国52億m³の約15%相当。
○ 国有林は森林面積の約44%を占め、蓄積では34%。民有林のha当たりの蓄積は200m³／haを上回る。

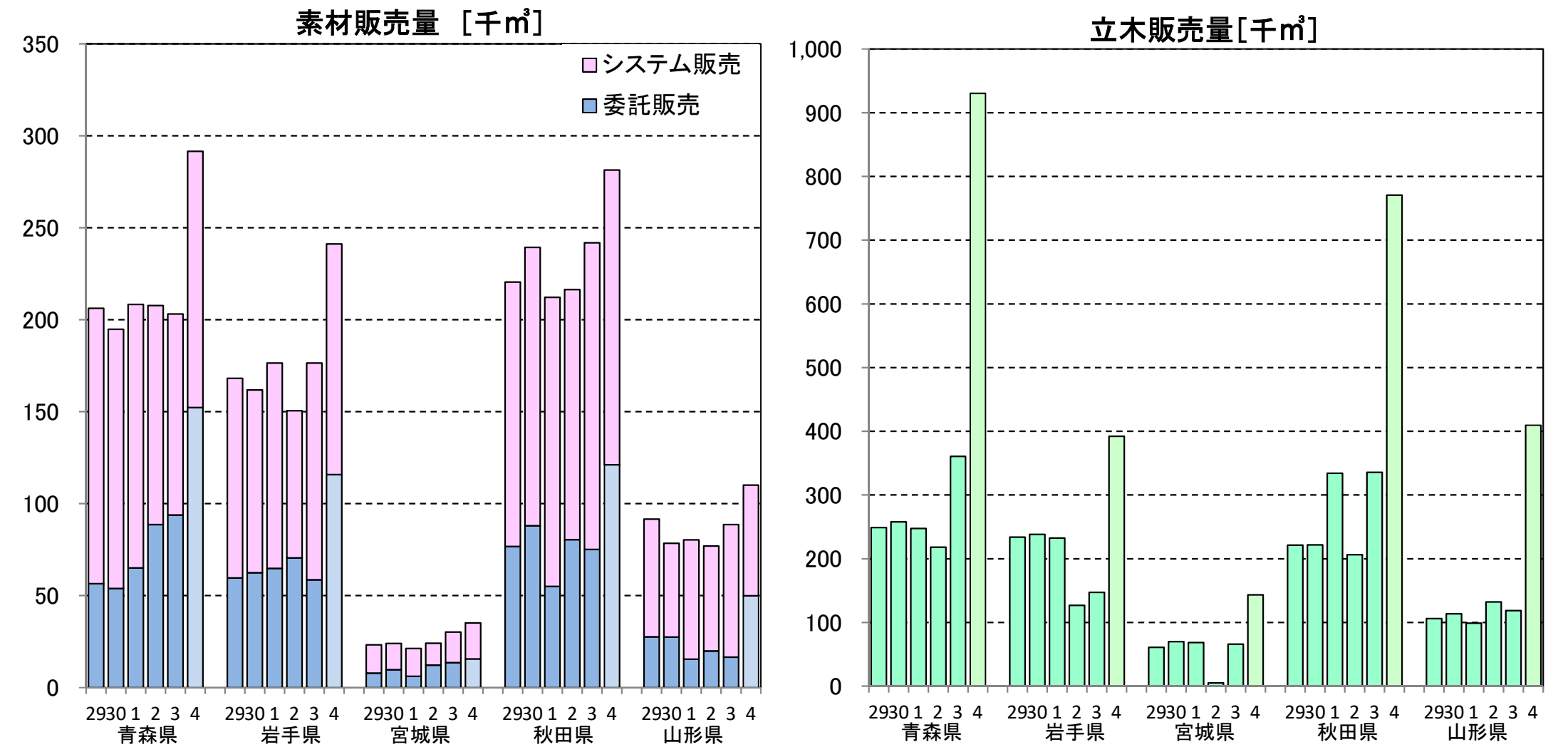


出典: 青森県の森林・林業(令和3年度版)、令和2年度版 岩手県林業の指標、みやぎの森林・林業のすがた(令和3年度版)、令和2年度版 秋田県林業統計、山形県林業統計(令和2年度版)、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(令和3年1月1日)、林野庁「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)、林野庁「第72次令和2年国有林野事業統計書(令和2年度)」

■ 東北森林管理局管内5県の国有林材の販売実績の推移

○ 令和3年度の各県における素材販売量に占めるシステム販売の割合は54%～81%で東北5県では65%だった。令和4年度計画では、各県におけるシステム販売は48%～57%で、東北5県では53%となっている。

○ 令和3年度の立木販売実績は平成29年度と比較すると+18%、前年度比では+49%だった。



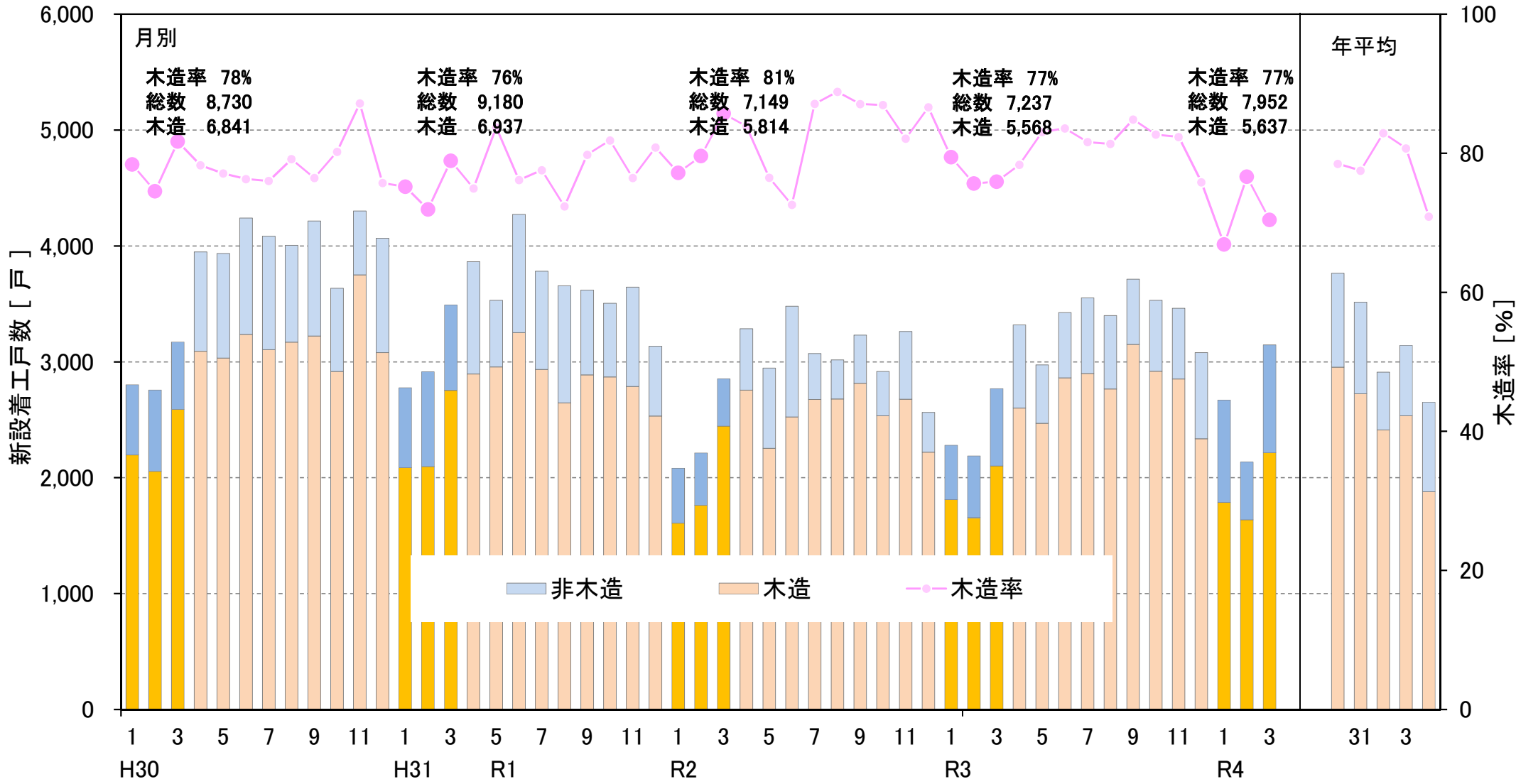
注1: 素材販売量は丸太の材積であり、立木販売量は立木材積である。

注2: 令和4年度は計画量である。

出典: 林野庁業務資料

■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年3月）

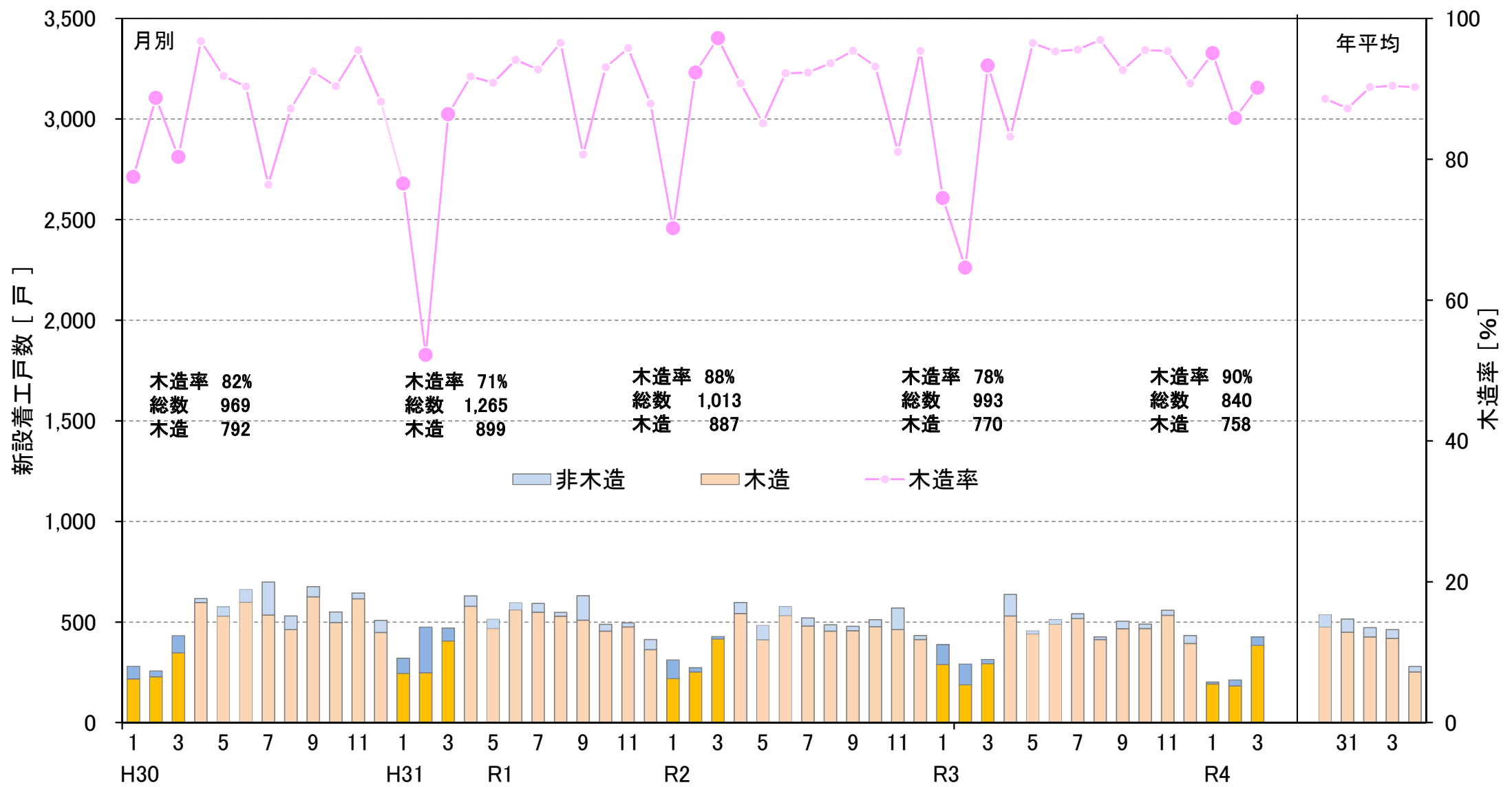
○ 東北5県の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より715戸増加した。
この期間の木造は昨年同期より69戸増加し、木造率は6%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

青森県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年3月）

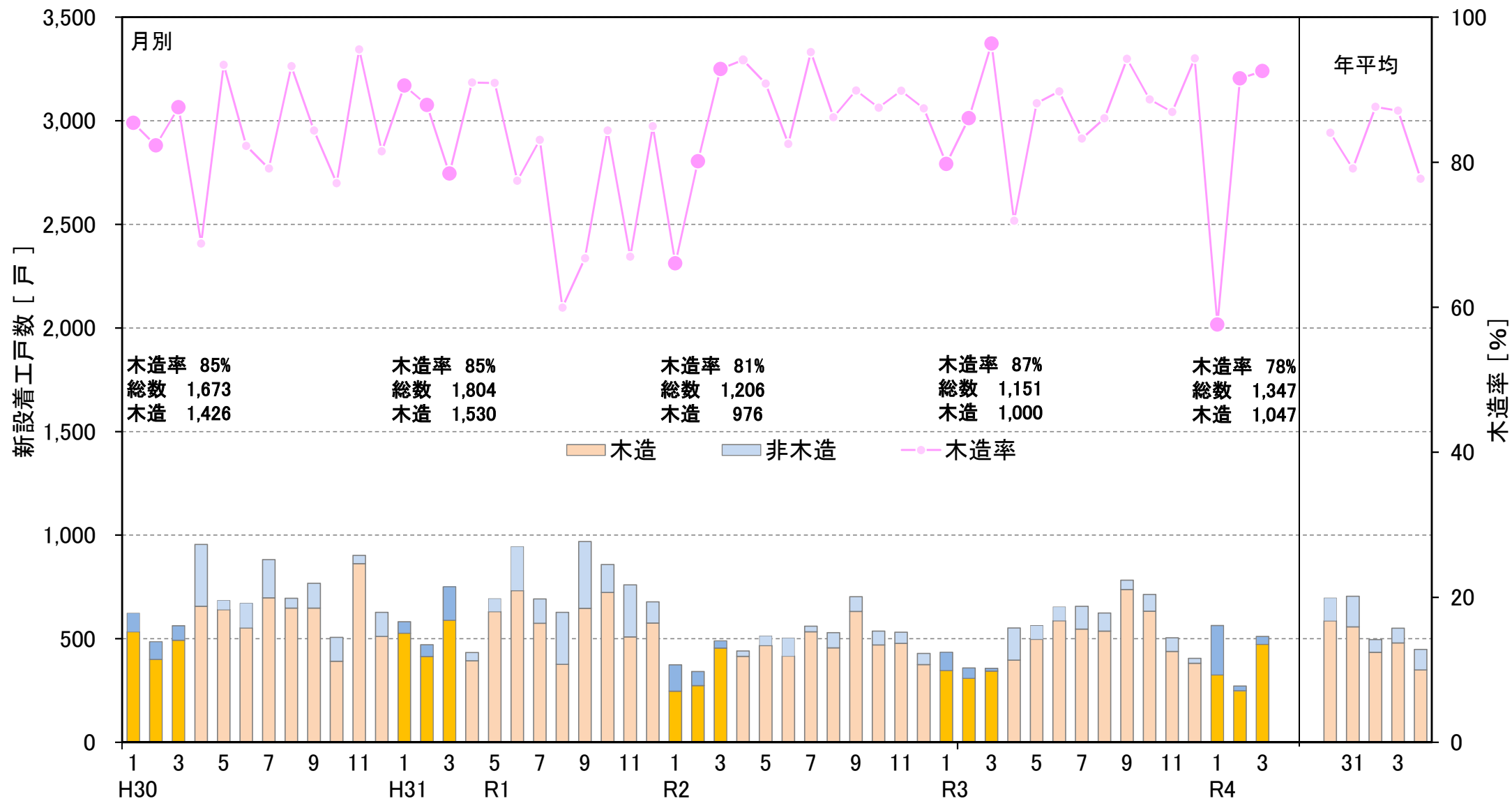
○ 青森県の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、去年同期より153戸減少した。
この期間の木造は12戸減少し、木造率は12%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年3月)

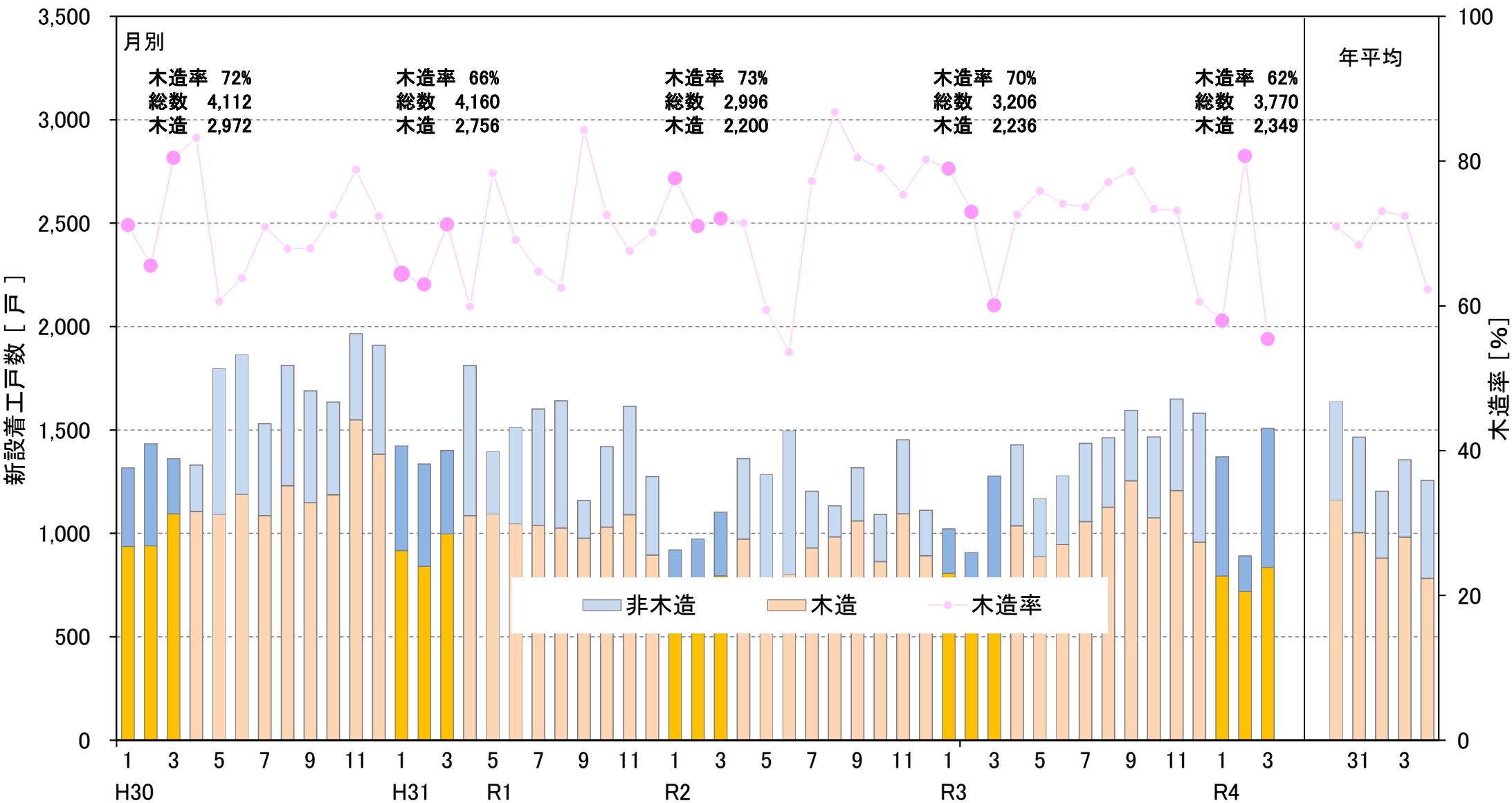
○ 岩手県の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、去年同期より196戸増加した。
この期間の木造は47戸増加し、木造率は9%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 宮城県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年3月）

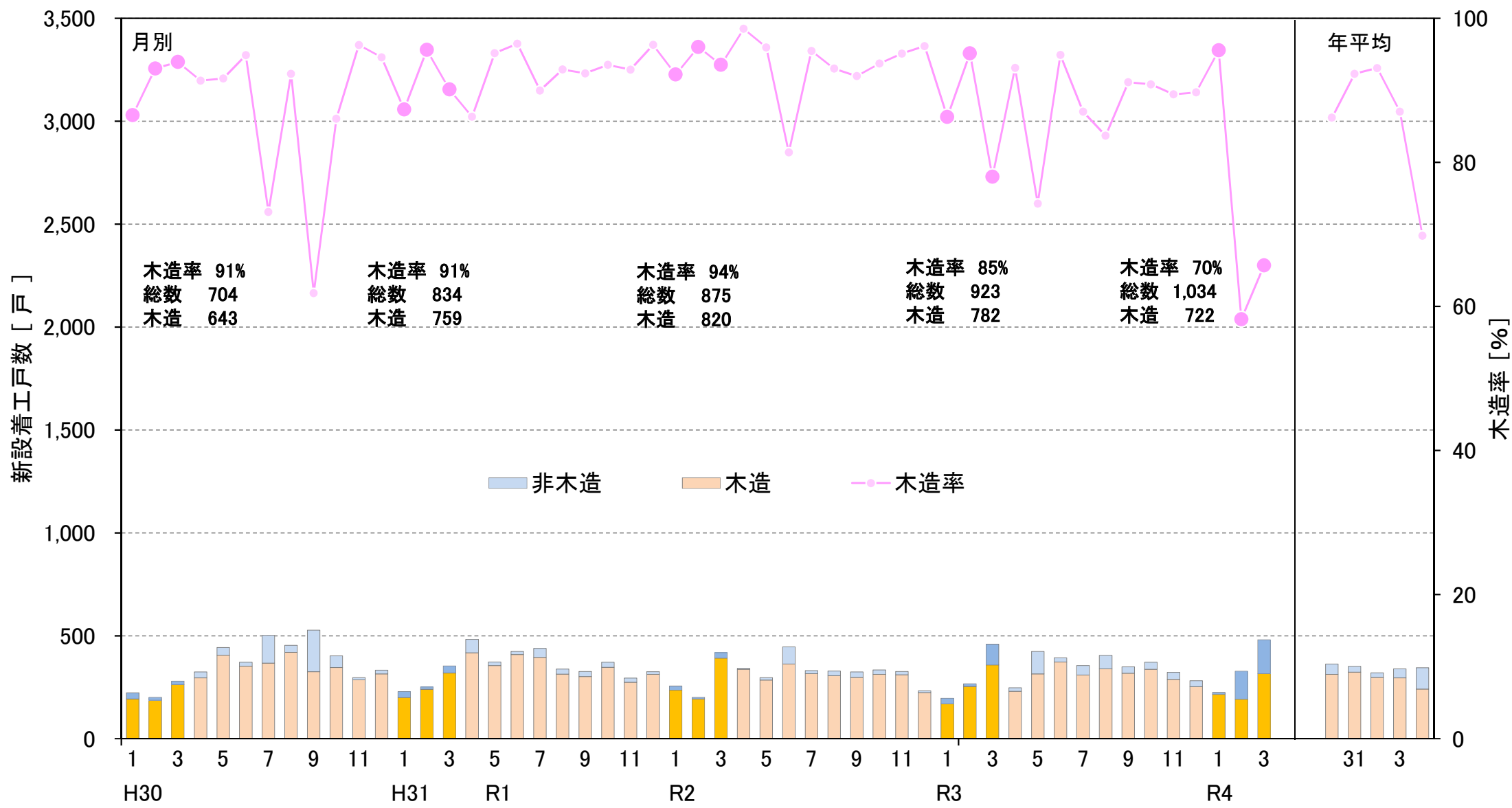
○ 宮城県の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より564戸増加した。
この期間の木造は113戸増加し、木造率は8%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

秋田県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年3月）

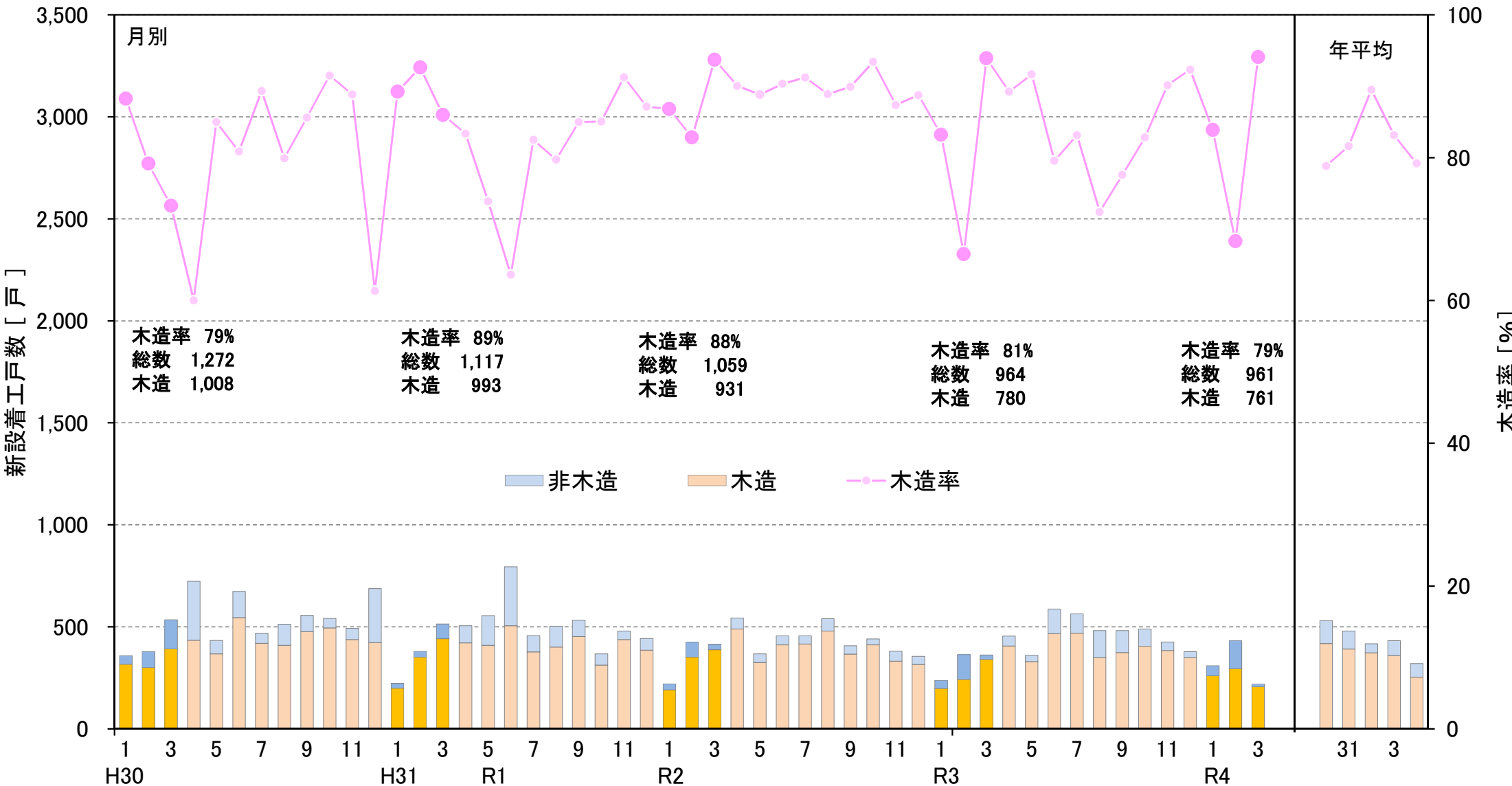
○ 秋田県の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、去年同期より111戸増加した。
この期間の木造は60戸減少し、木造率は15%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年3月）

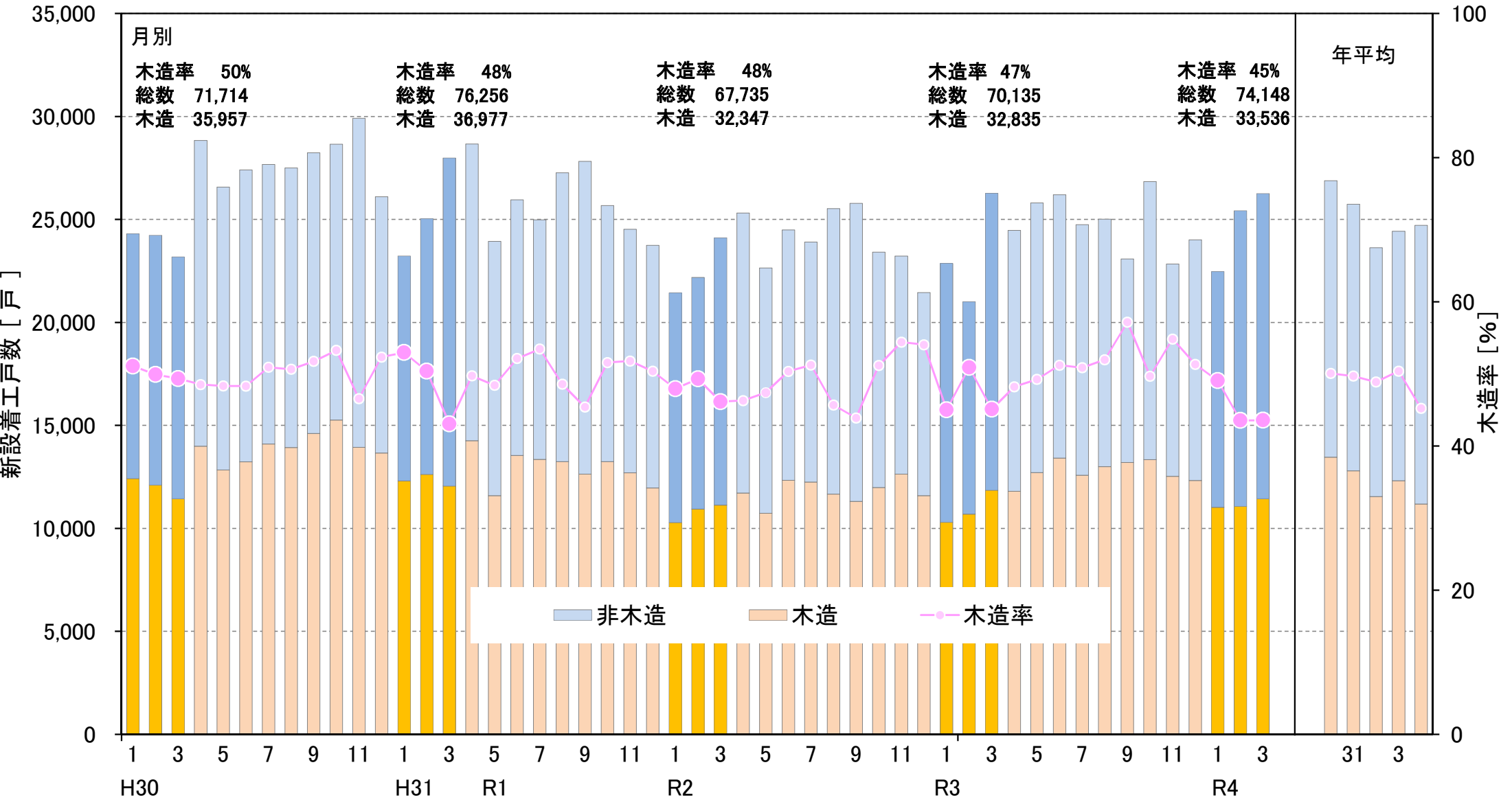
○ 山形県の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、去年同期より3戸減少した。
この期間の木造は19戸減少し、木造率は2%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年3月）

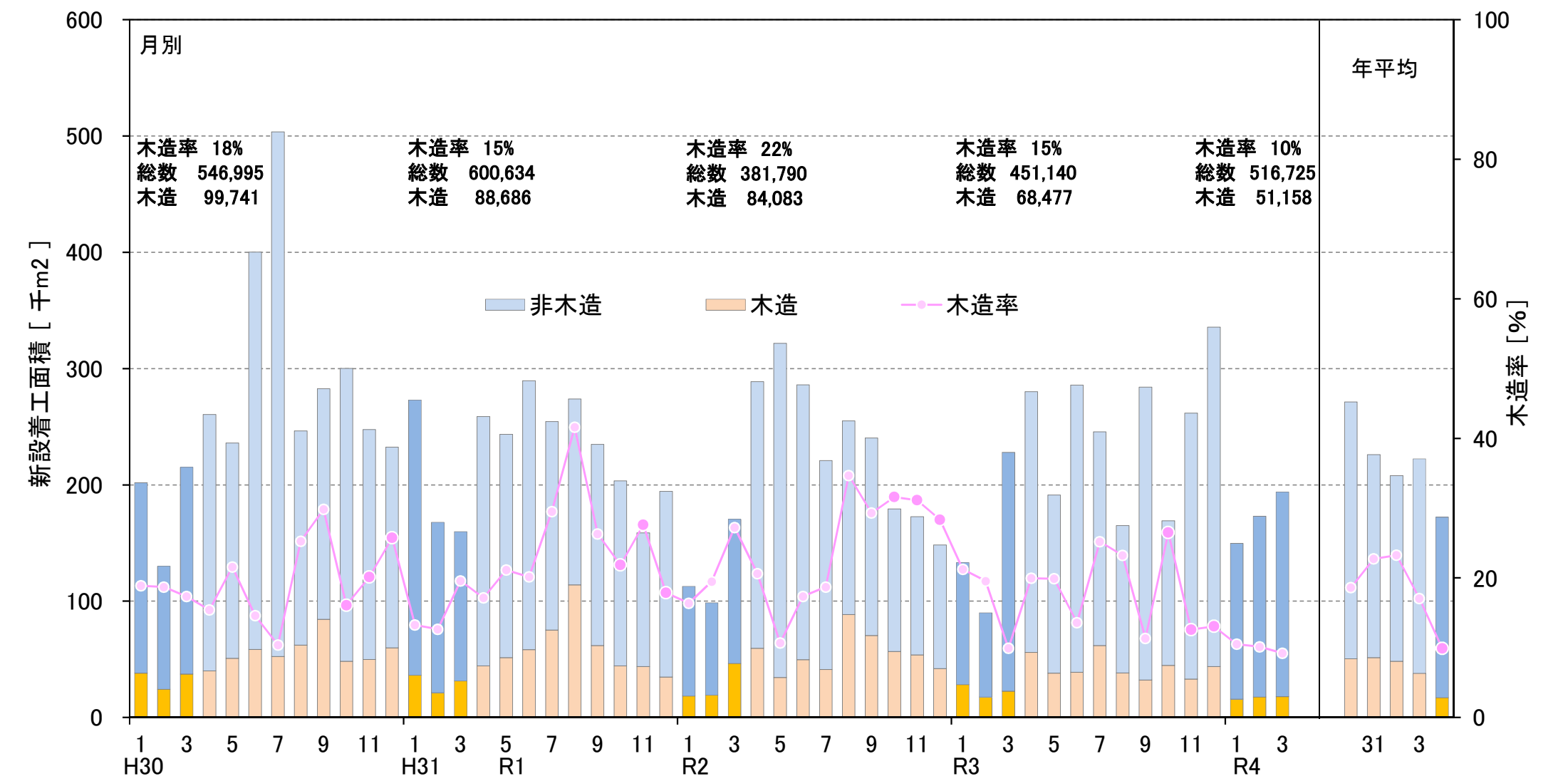
○ 関東主要都市の令和4年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より4,013戸増加した。
この期間の木造は701戸増加し、木造率は2%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

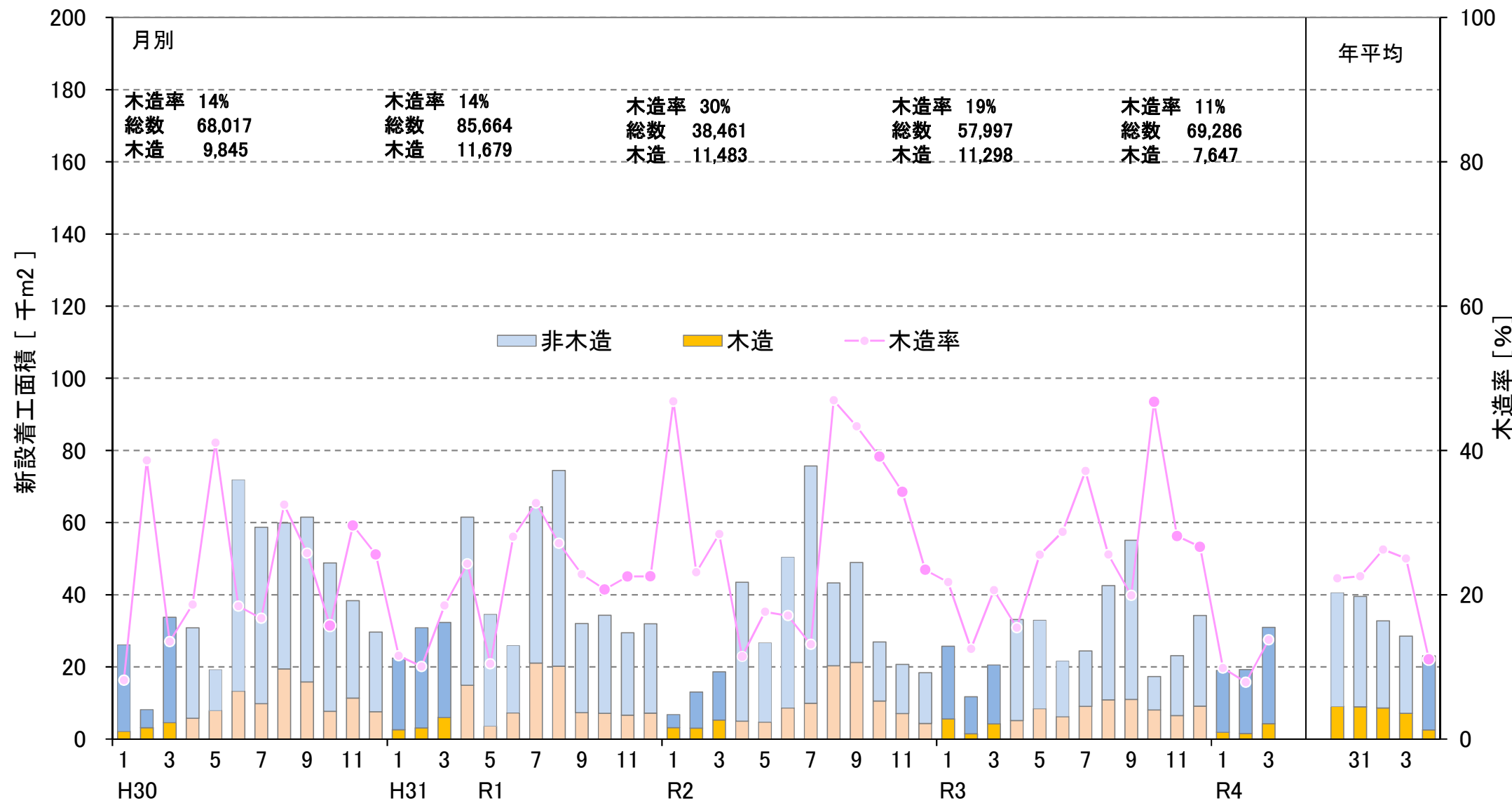
■ 東北森林管理局管内5県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年3月)

○ 東北5県の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より65,585㎡増加した。
この期間の木造は昨年同期より17,319㎡減少し、木造率は5%減少した。



■ 青森県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年3月）

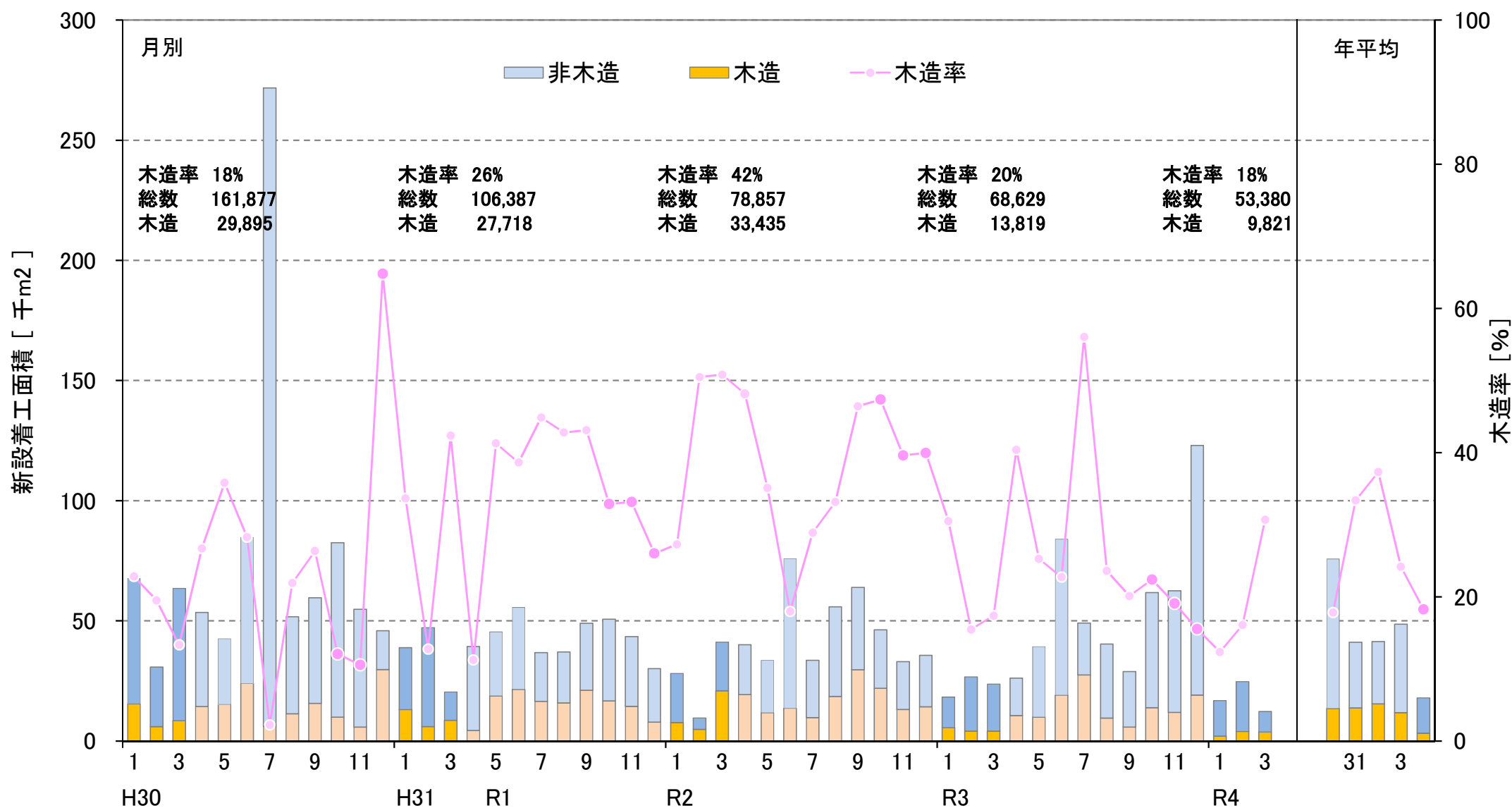
○ 青森県の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着面積は、去年同期より11,289㎡増加した。
この期間の木造は3,651㎡減少し、木造率は8%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年3月）

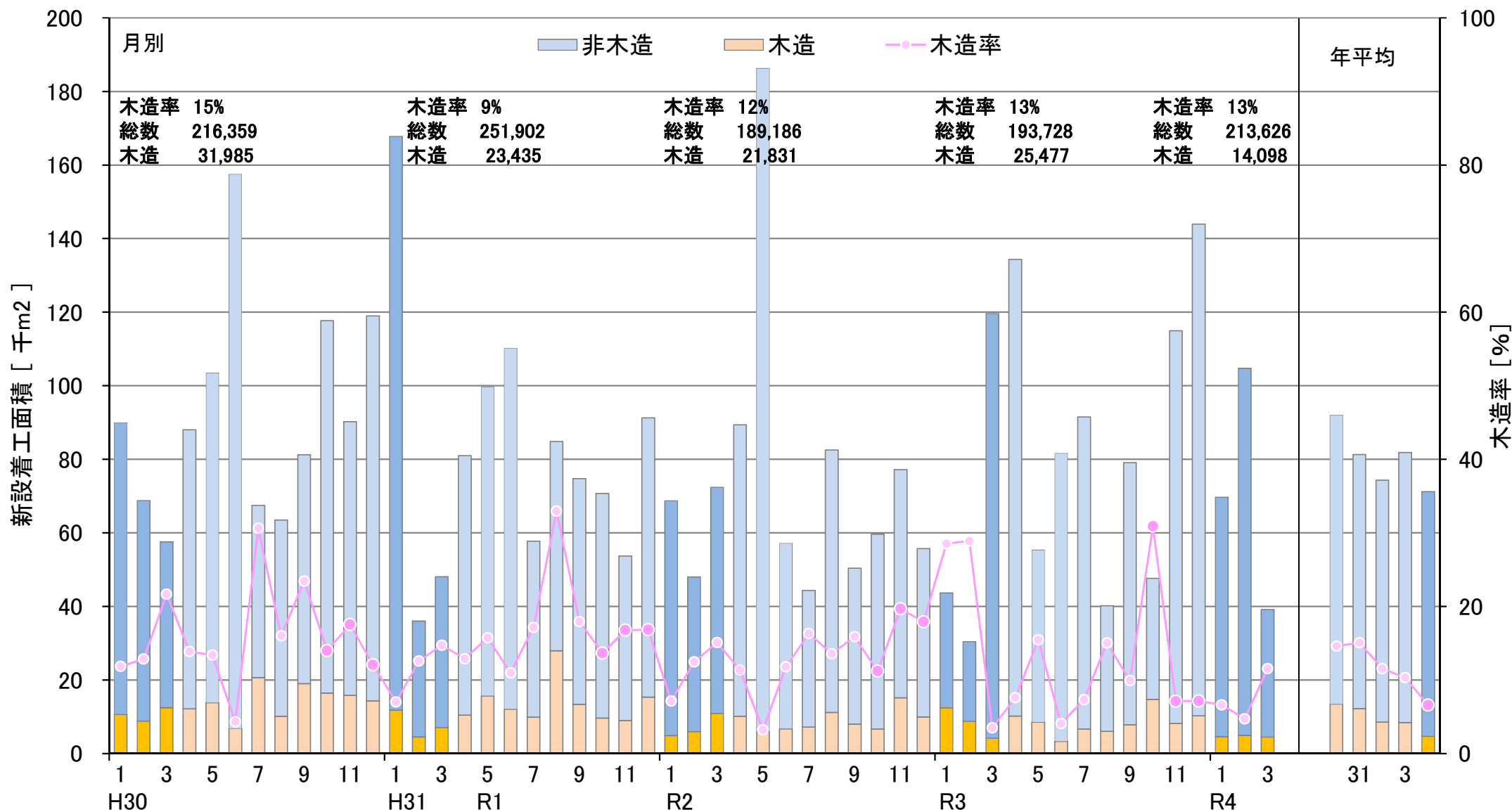
○ 岩手県の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より14,799㎡減少した。
この期間の木造は3,998㎡減少し、木造率は2%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 宮城県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年3月）

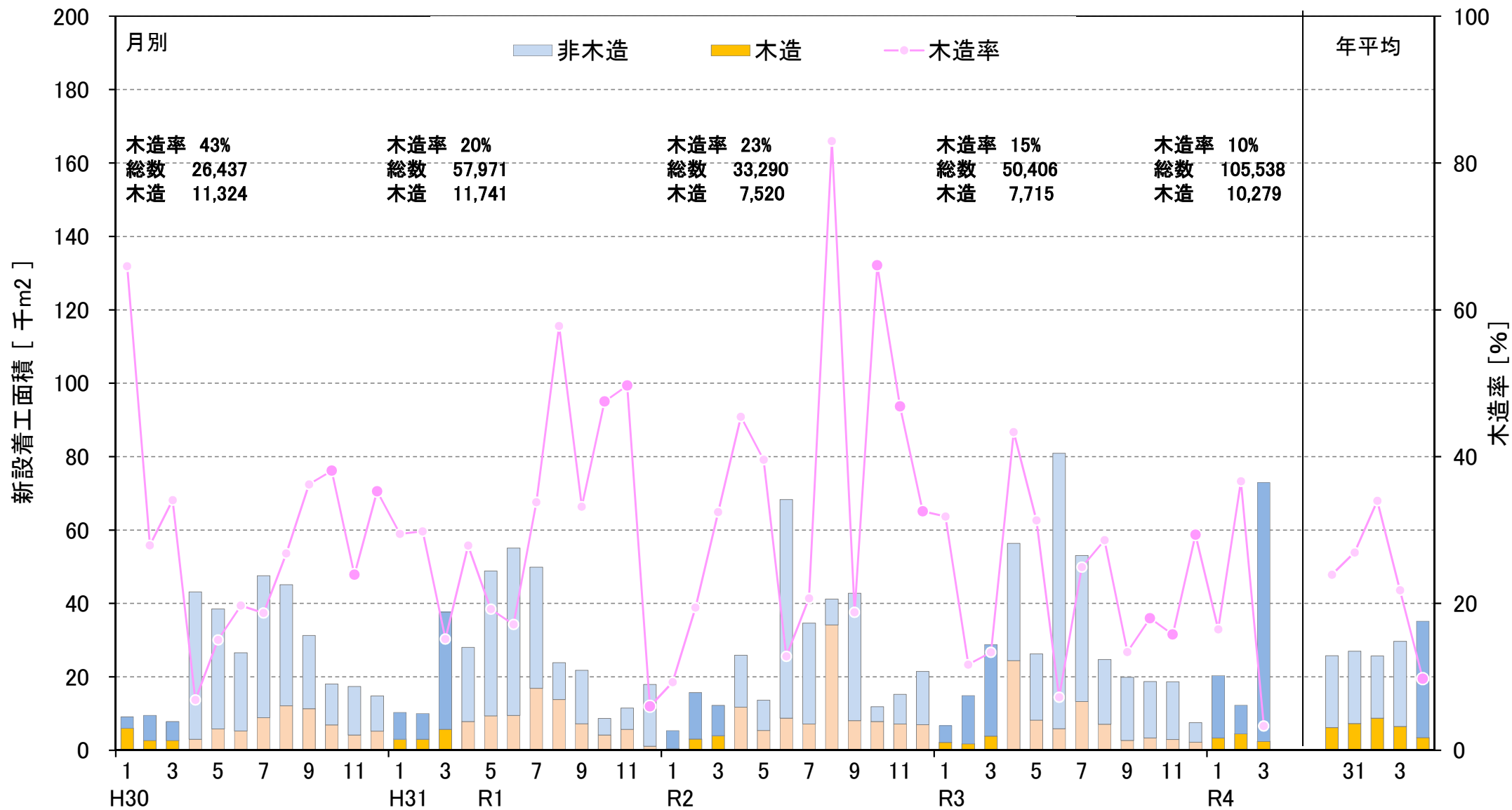
○ 宮城県の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より19,898㎡増加した。
この期間の木造は11,379㎡減少し、木造率は6%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年3月)

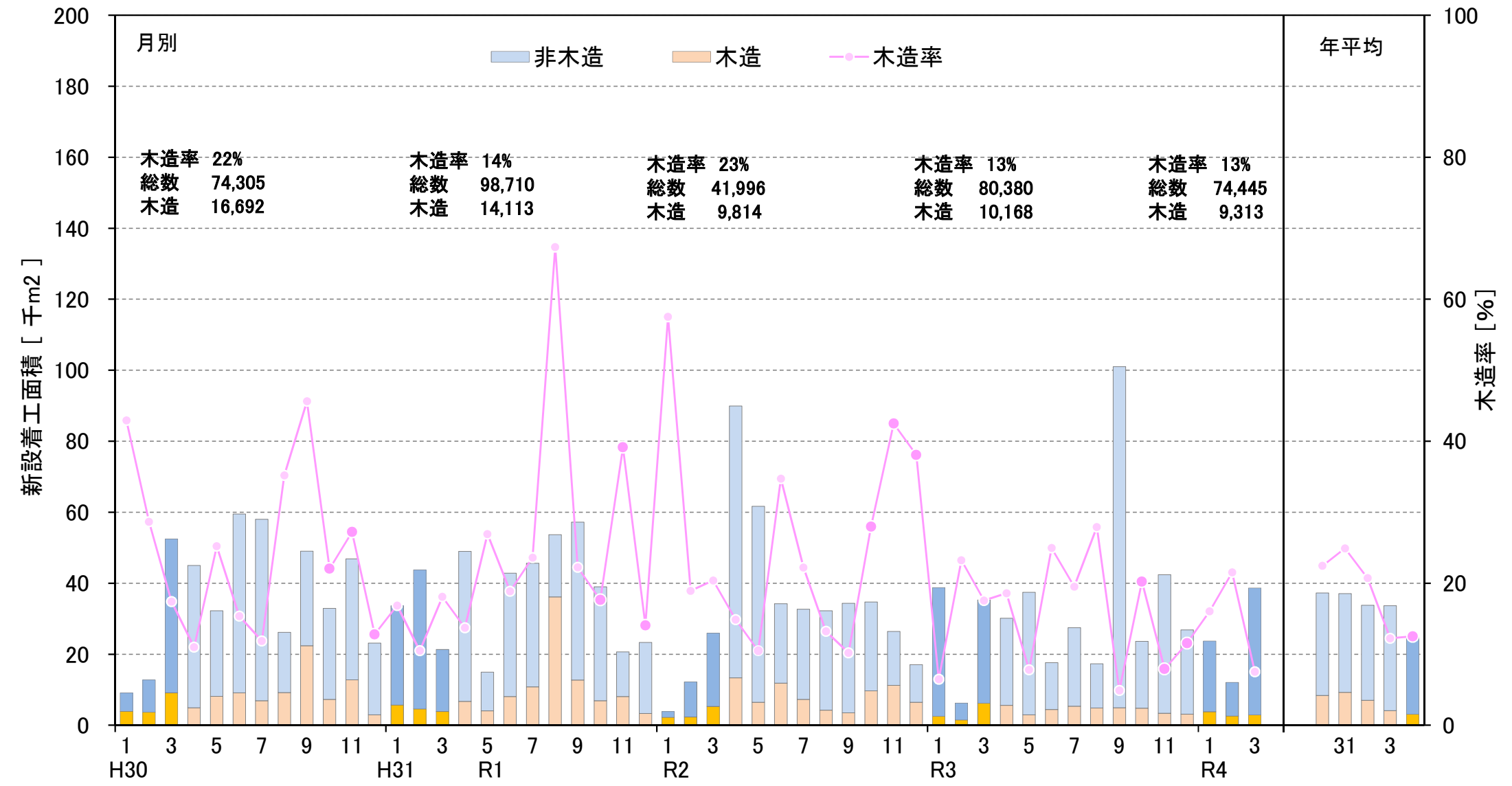
○ 秋田県の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着工面積は、去年同期より55,132㎡増加した。
この期間の木造は2,564㎡増加し、木造率は5%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 山形県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年3月）

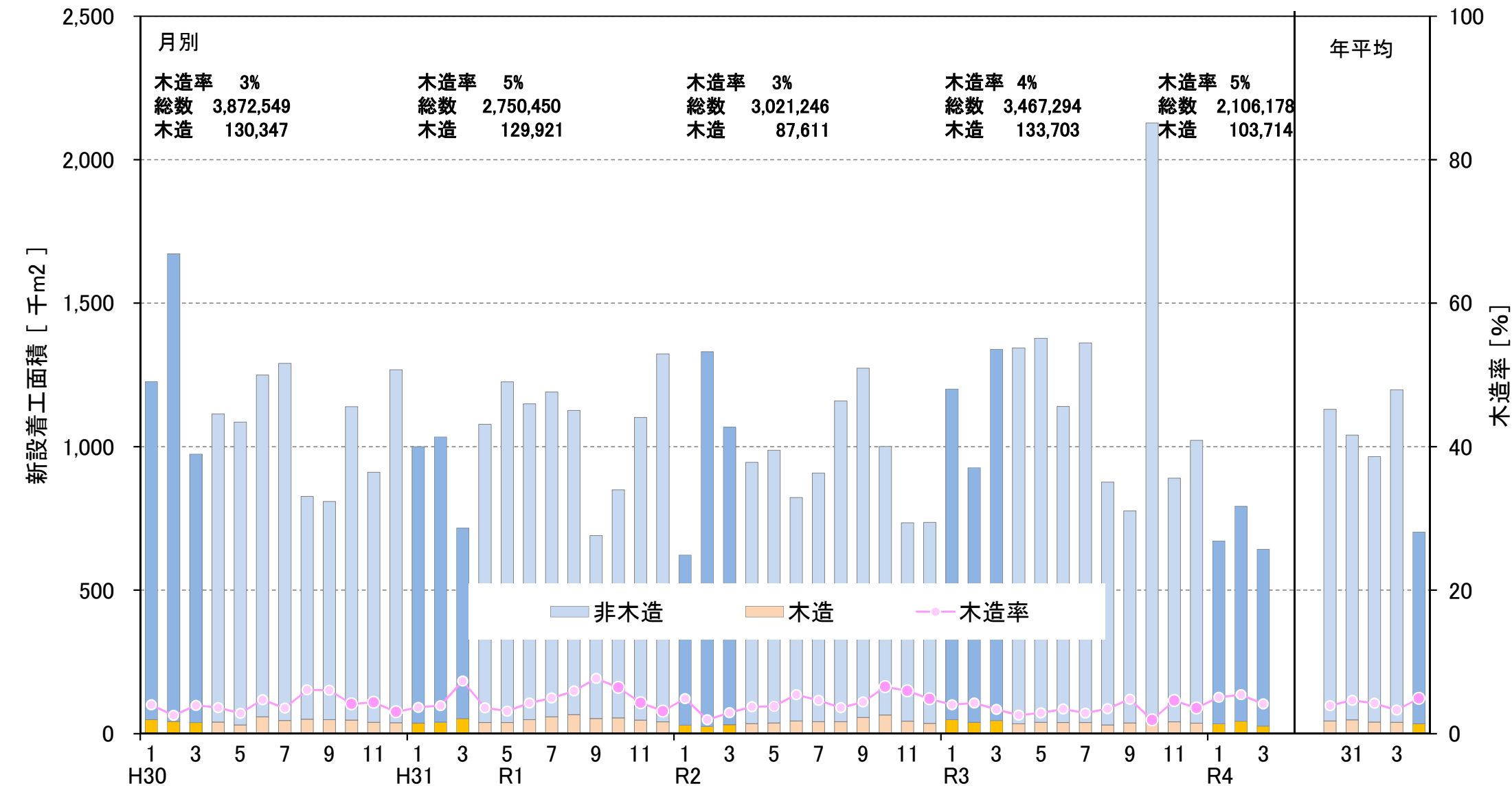
○ 山形県の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より5,935㎡増加した。
この期間の木造は354㎡増加し、木造率は10%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

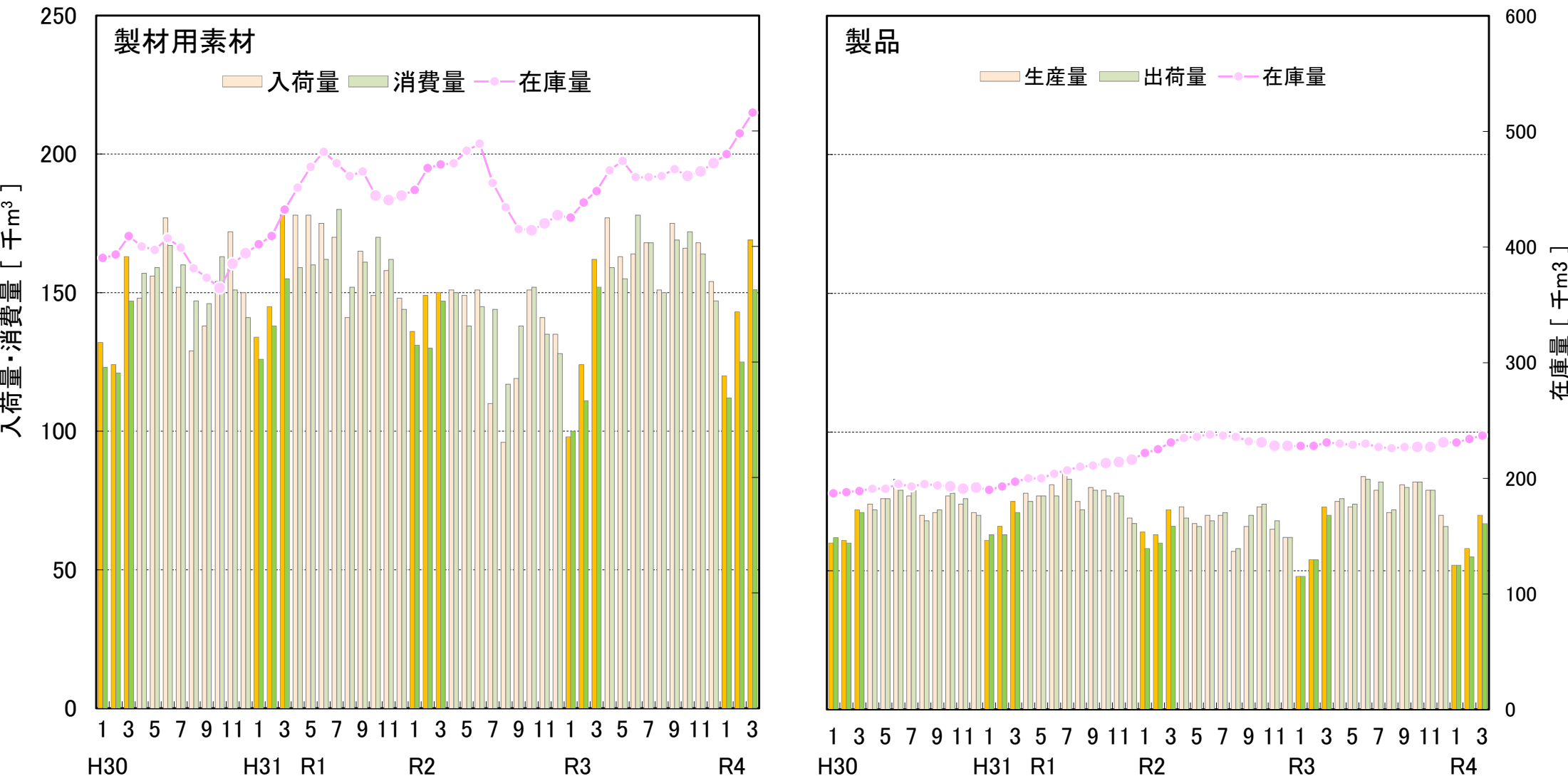
■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年3月）

○ 関東主要都市の令和4年1～3月期の新設産業用建築物着工面積は、去年同期より1,361,116㎡減少した。
この期間の木造は29,989㎡減少し、木造率は1%増加した。



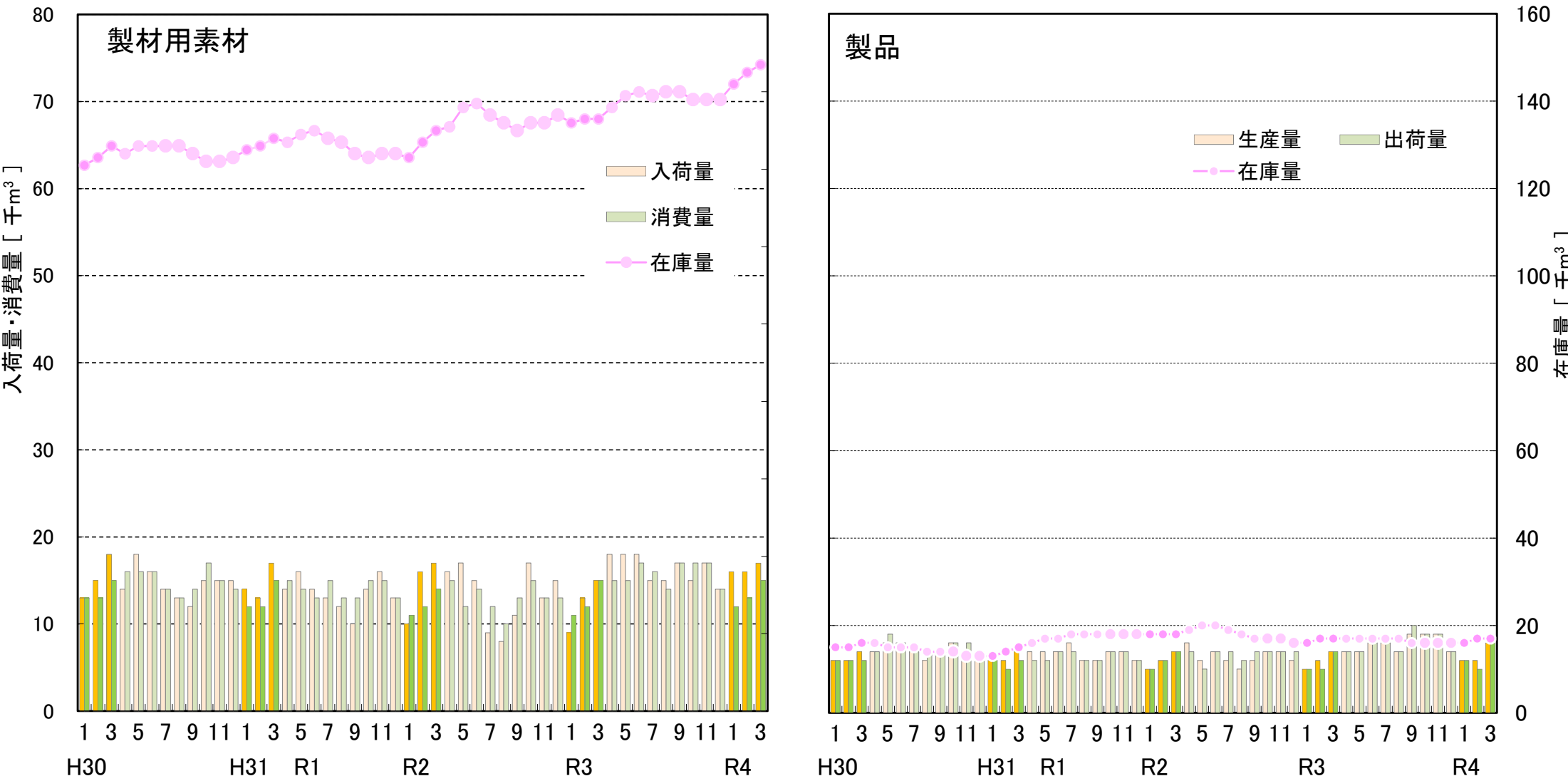
■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年3月）

- 東北5県の製材用素材の令和4年1～3月の入荷量は昨年同期比＋13%、消費量は＋7%、在庫量は3月比＋15%。
- 製材品の令和4年1～3月の生産量は昨年同期比＋3%、出荷量は＋1%、在庫量は3月比＋3%。



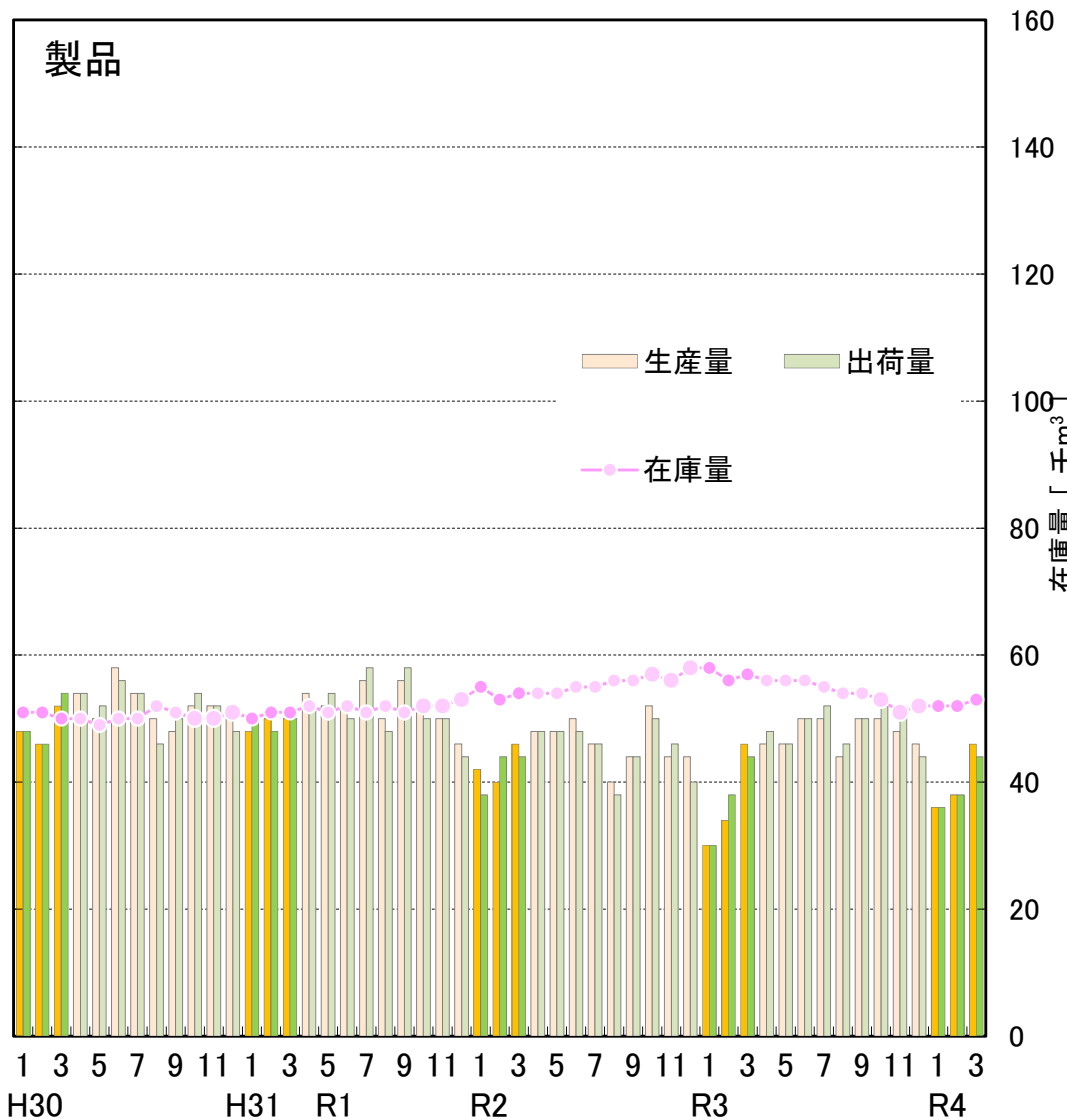
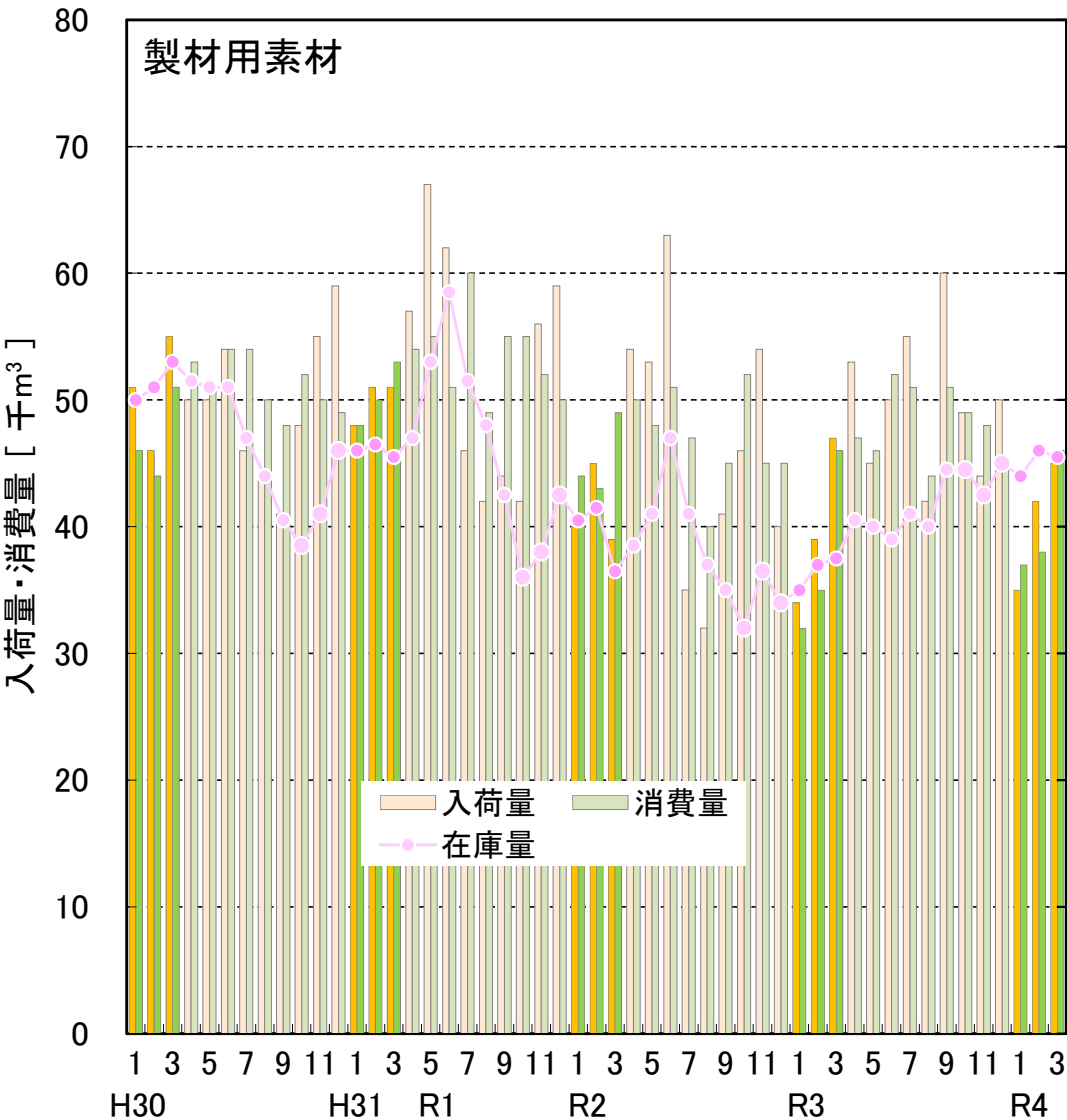
■ 青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年3月）

- 製材用素材の令和4年1～3月の入荷量は昨年同期比＋32%、消費量は＋5%、在庫量は3月比＋9%。
- 製材品の令和4年1～3月の生産量は昨年同期比＋11%、出荷量は＋12%、在庫量は3月比±0%。



■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年3月）

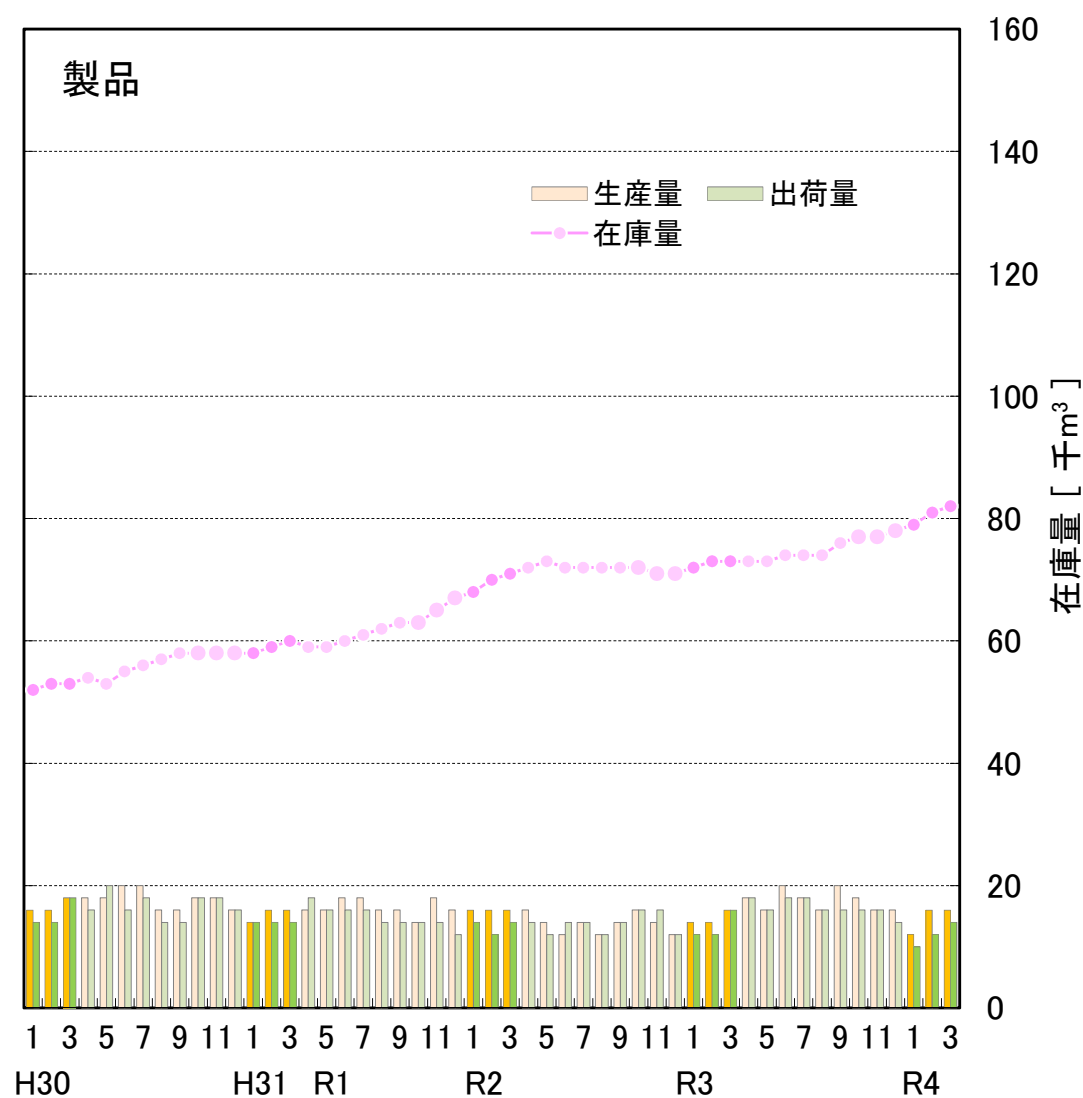
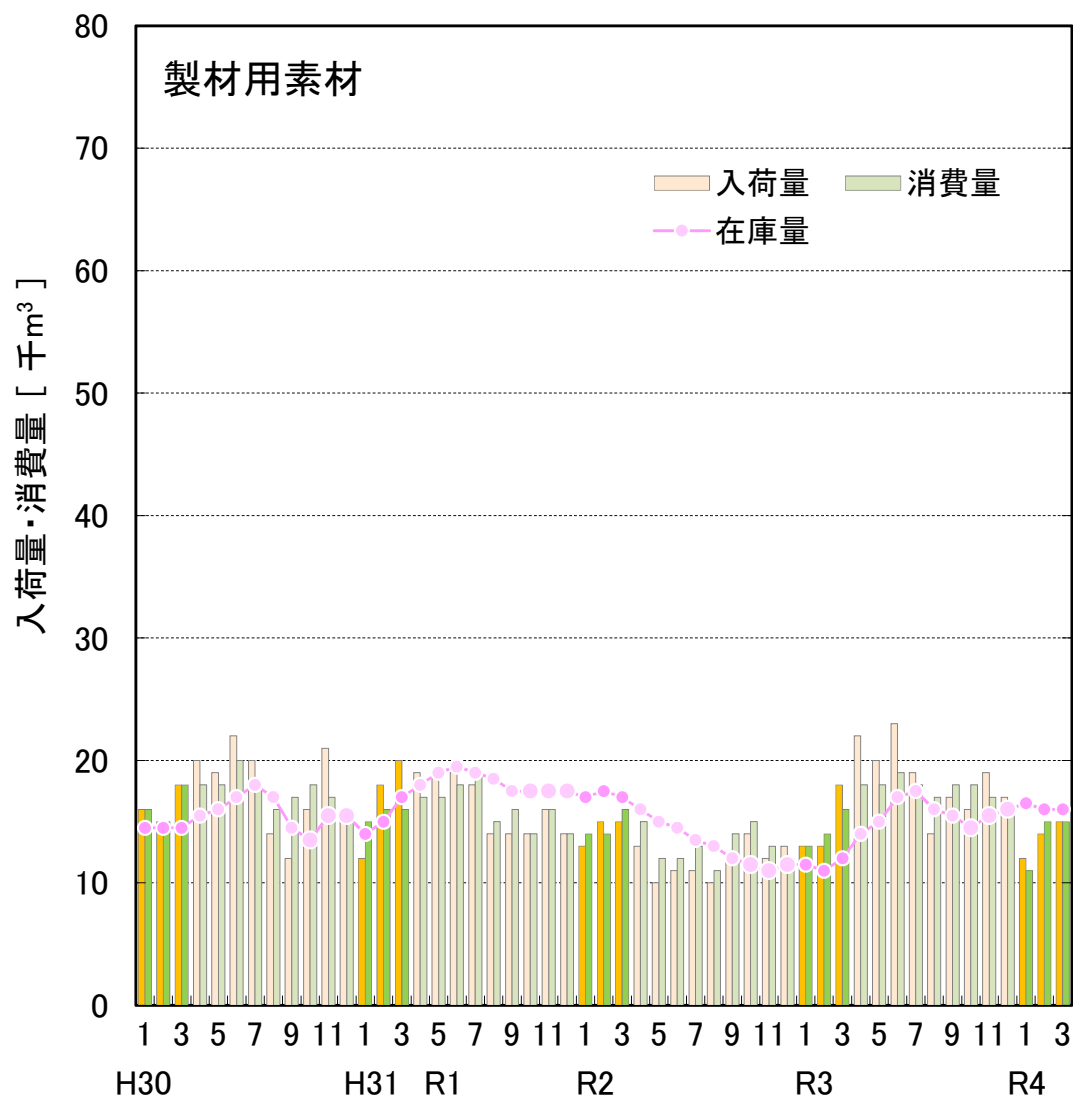
- 製材用素材の令和4年1～3月の入荷量は昨年同期比＋2%、消費量は＋7%、在庫量は3月比＋21%。
- 製材品の令和4年1～3月の生産量は昨年同期比＋9%、出荷量は＋5%、在庫量は3月比－7%。



■ 宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年3月）

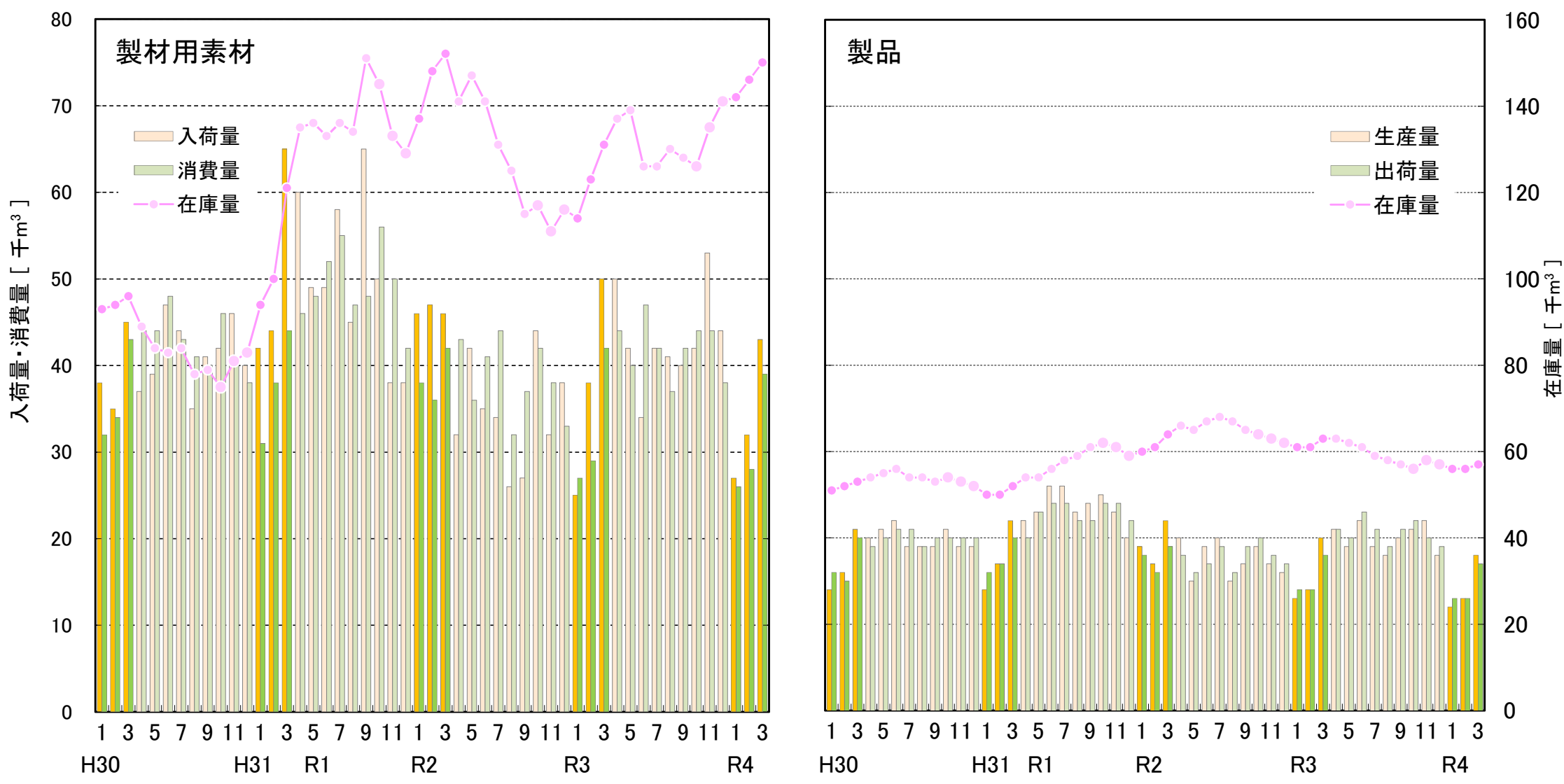
○ 製材用素材の令和4年1～3月の入荷量は昨年同期比－7%、消費量は－5%、在庫量は3月比＋33%。

○ 製材品の令和4年1～3月の生産量は昨年同期比±0%、出荷量は－10%、在庫量は3月比＋12%。



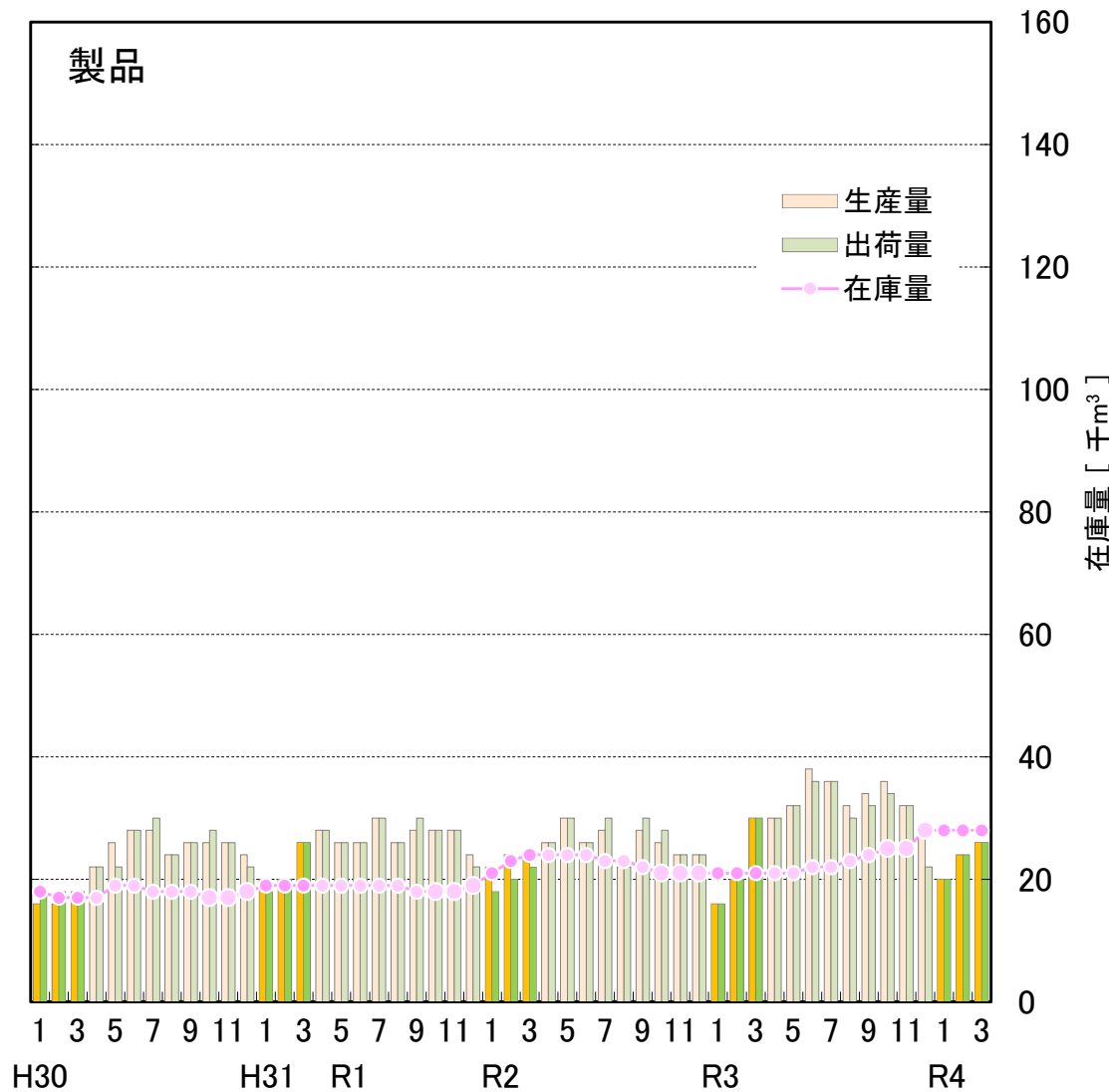
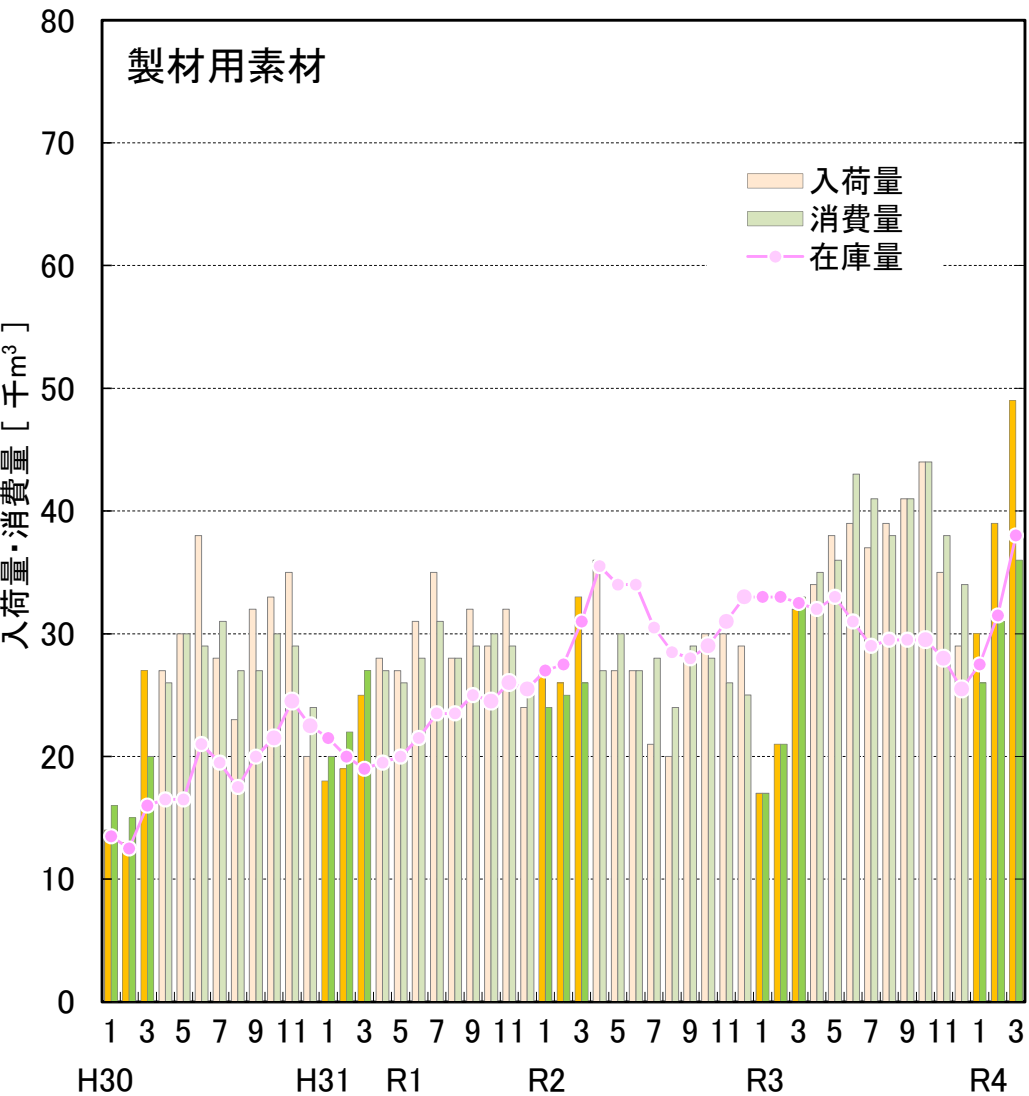
■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年3月）

- 製材用素材の令和4年1～3月の入荷量は昨年同期比－10%、消費量は－5%、在庫量は3月比＋15%。
- 製材品の令和4年1～3月の生産量は昨年同期比－9%、出荷量は－7%、在庫量は3月比－10%。

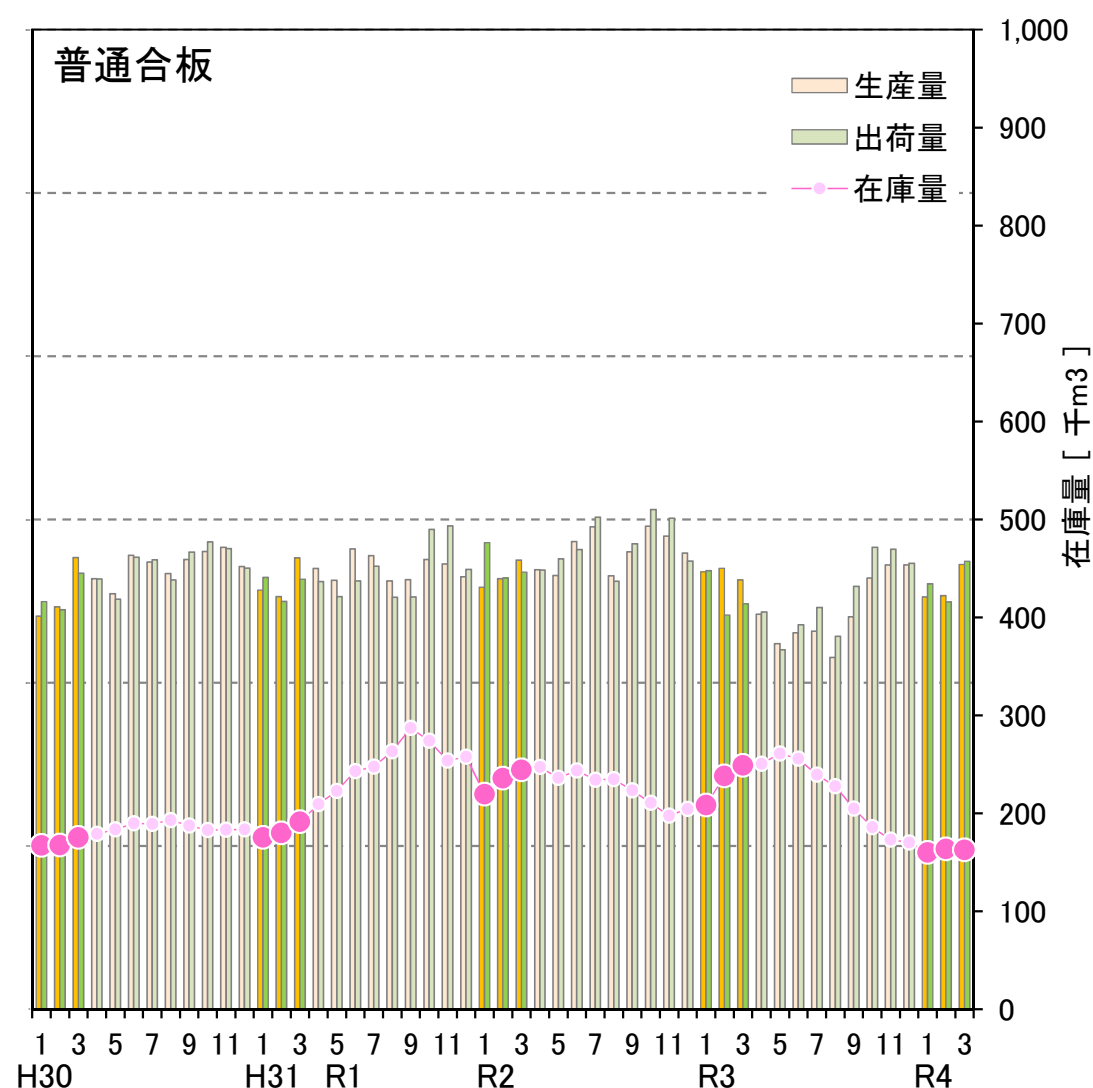


山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年3月）

○ 製材用素材の令和4年1～3月の入荷量は昨年同期比＋69%、消費量は＋31%、在庫量は3月比＋17%。
○ 製材品の令和4年1～3月の生産量は昨年同期比＋6%、出荷量は＋6%、在庫量は3月比＋33%。



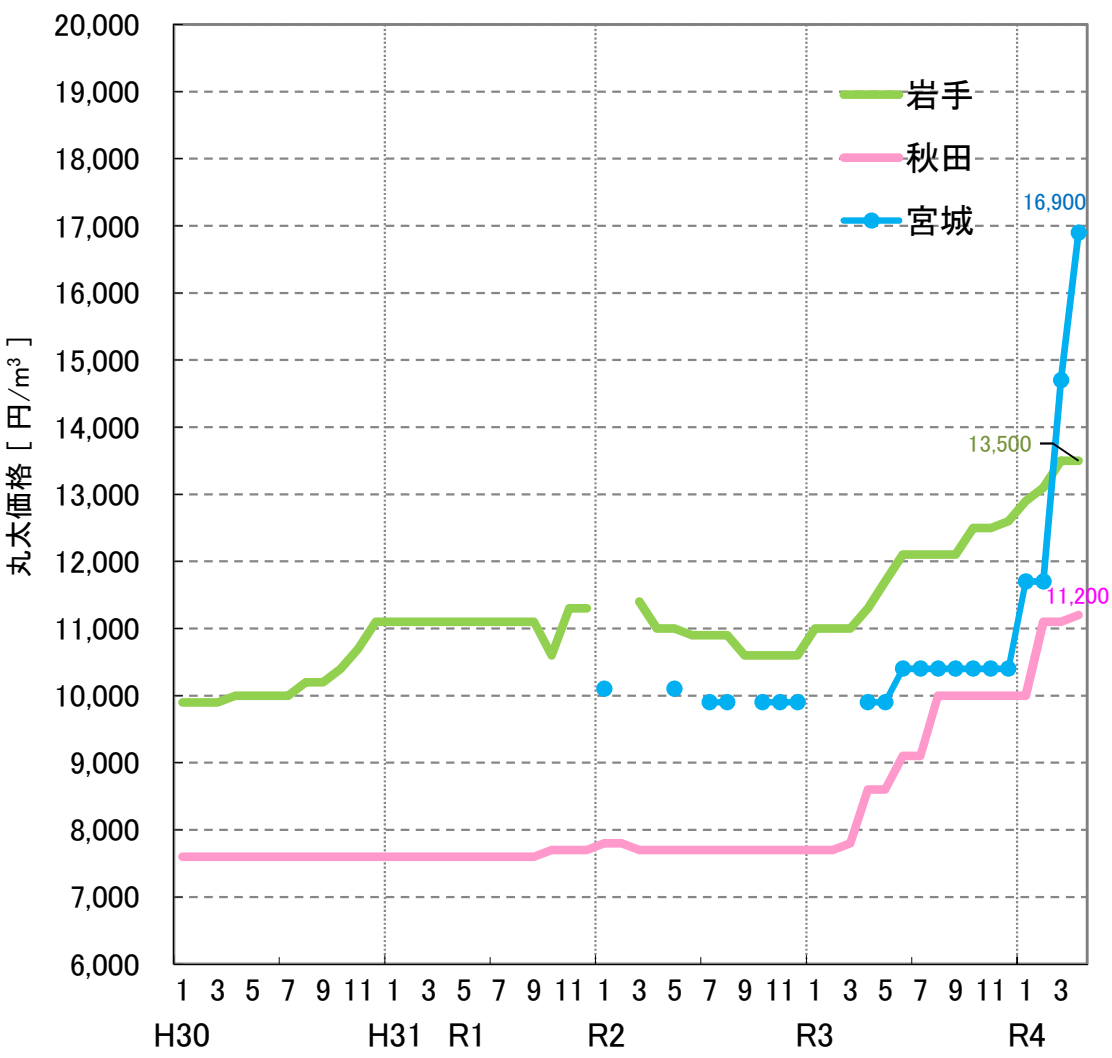
- 単板製造用素材の令和4年1～3月期の入荷量は昨年同期比+20%、うち国産材は+19%、消費量は+2%、在庫量は3月比+51%。
- 普通合板の令和4年1～3月期の生産量は昨年同期比+1%、出荷量は+1%、在庫量については3月比-12%。



■ すぎ丸太価格の推移 (平成30年1月～令和4年4月)

- すぎ小丸太価格は、秋田、宮城は強含み。
- すぎ中丸太価格は、青森、岩手、秋田は強含み。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)



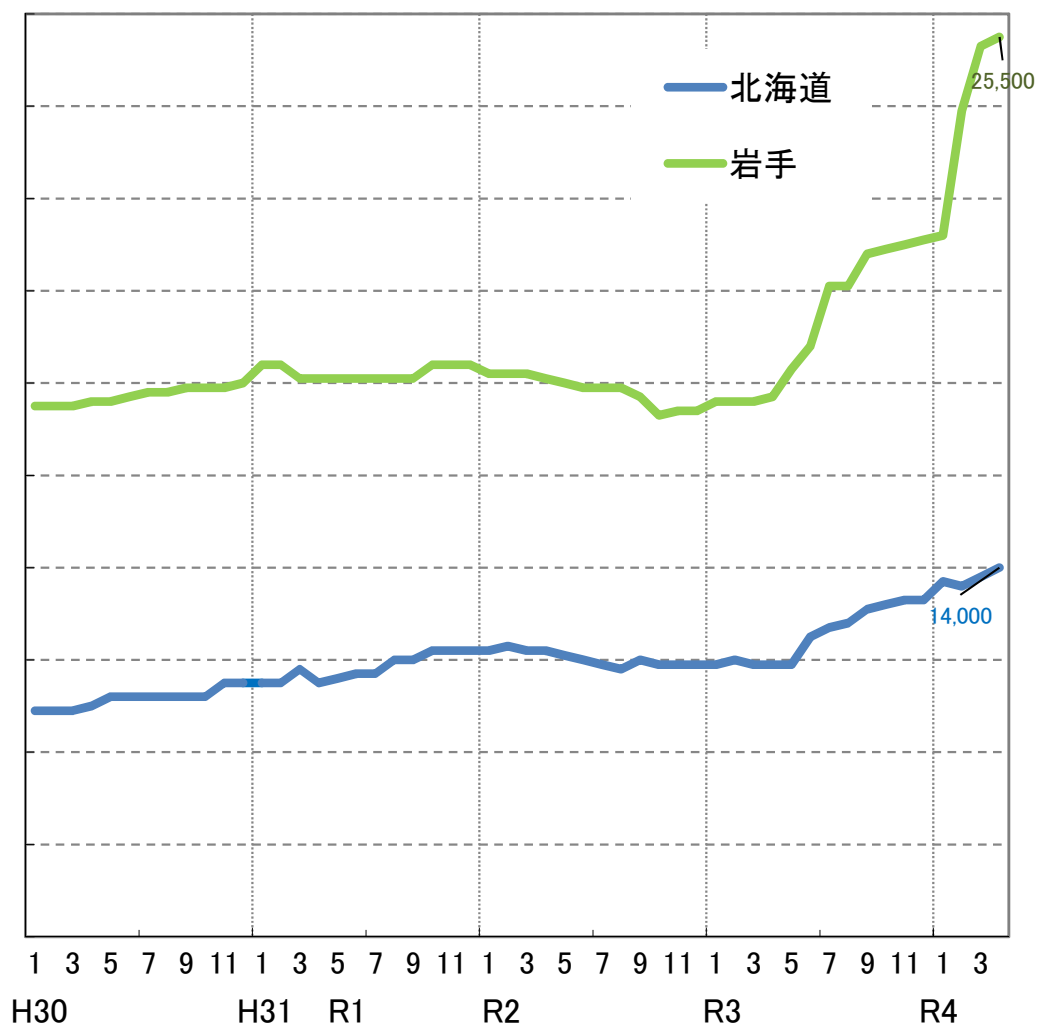
■ まつ・からまつ丸太価格の推移（平成30年1月～令和4年4月）

- まつ中丸太価格は青森、岩手とも保合で推移。
- からまつ丸太価格は岩手、北海道とも強含み。北海道との価格差は11,500円。

まつ中丸太 3.65～4.00m（24～28cm）



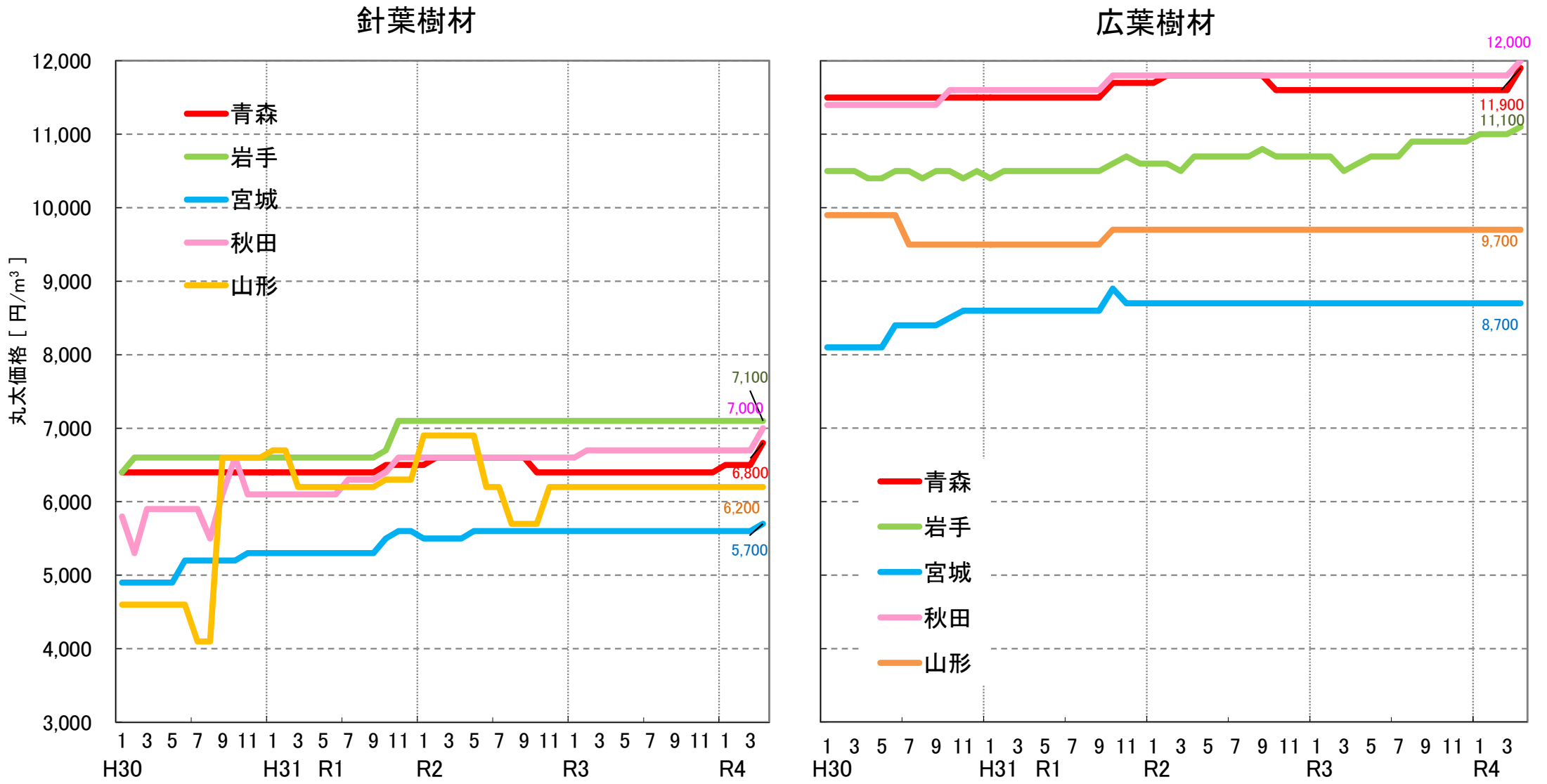
からまつ中丸太 3.65～4.00m（24～28cm）



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

■チップ用丸太価格の推移（平成30年1月～令和4年4月）

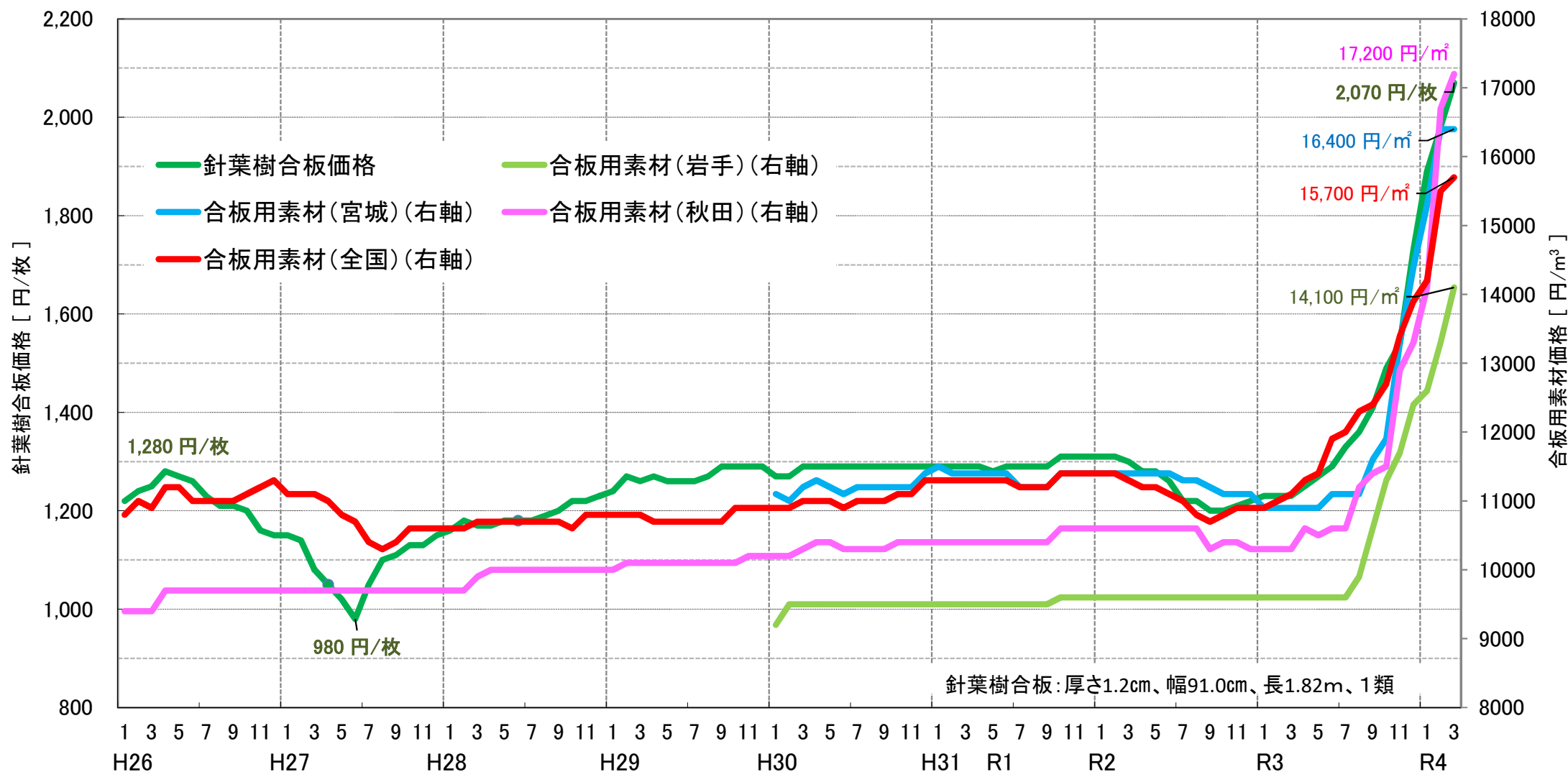
○ チップ用丸太価格は針葉樹・広葉樹とも保合～強含み。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

■ 針葉樹合板及び合板用素材価格の推移（平成26年1月～令和4年4月）

- 針葉樹合板価格は、2,070円/枚。
- 合板用素材価格は、秋田は強含み、岩手・宮城は保合で推移。



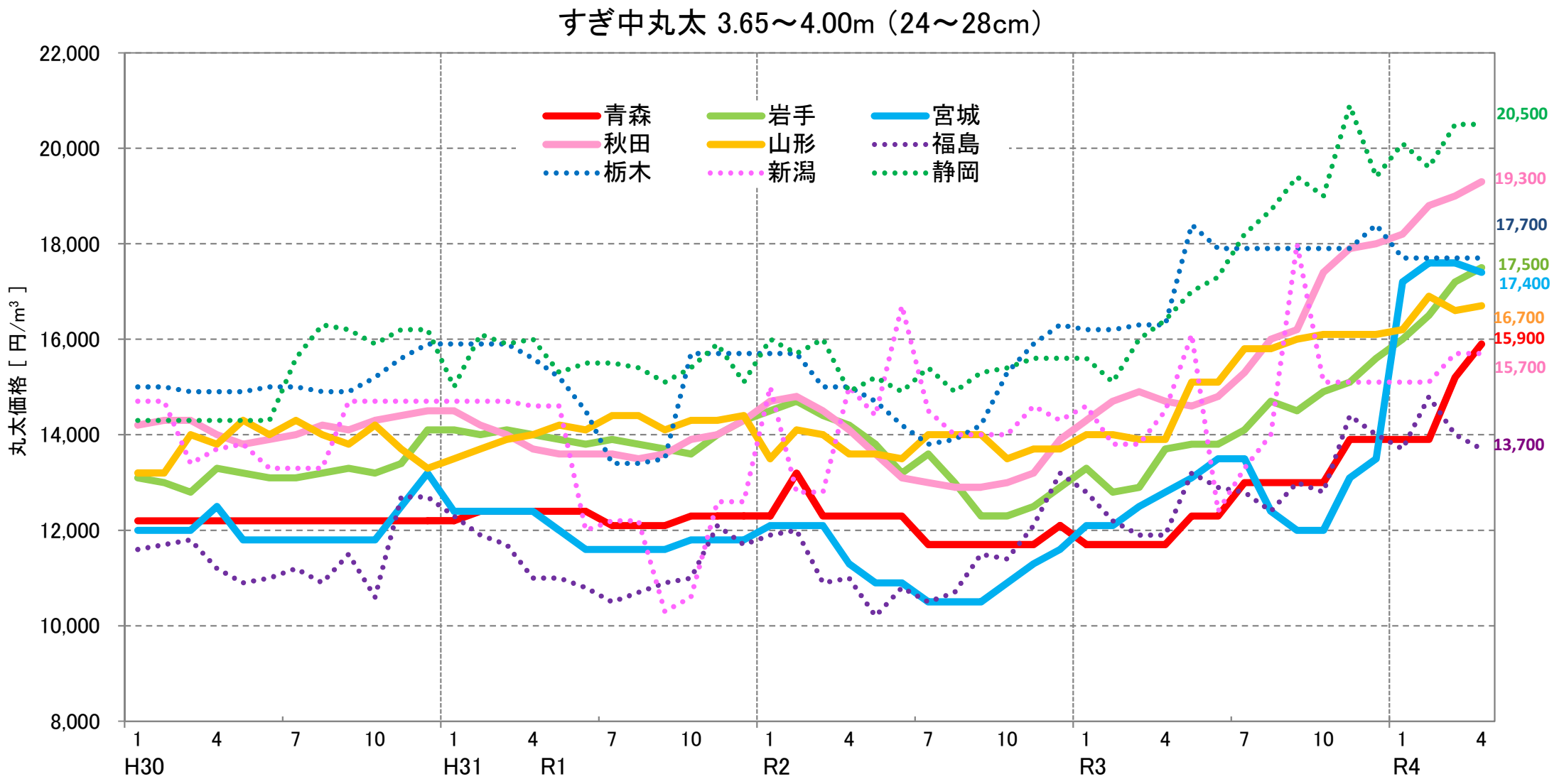
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。

■ 関東地方との木材価格の比較 (平成30年1月～令和4年4月)

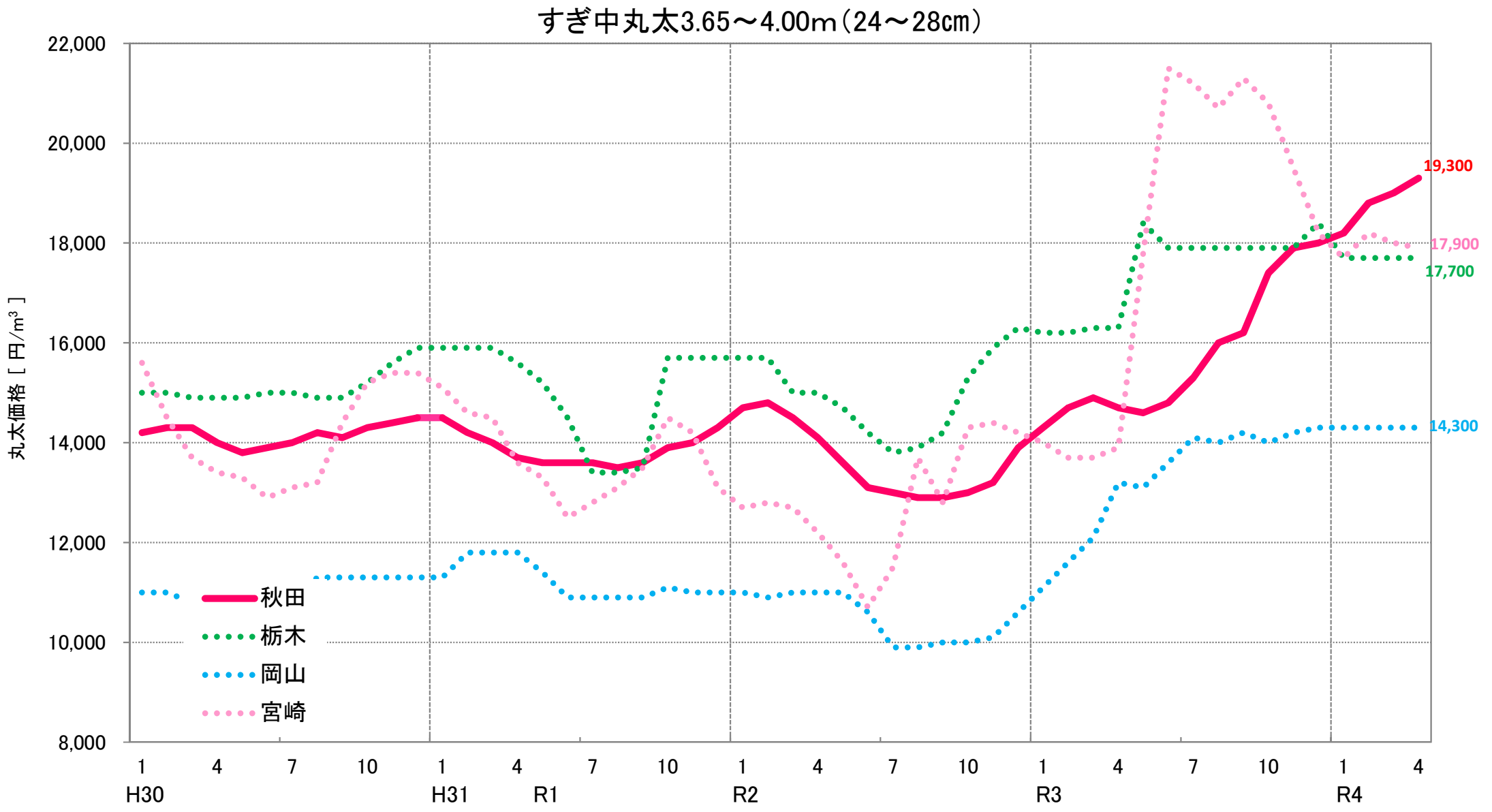
- 東北5県では青森、岩手、秋田、山形が強含み。
- 栃木、新潟、静岡は保合、福島は弱含み。



出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

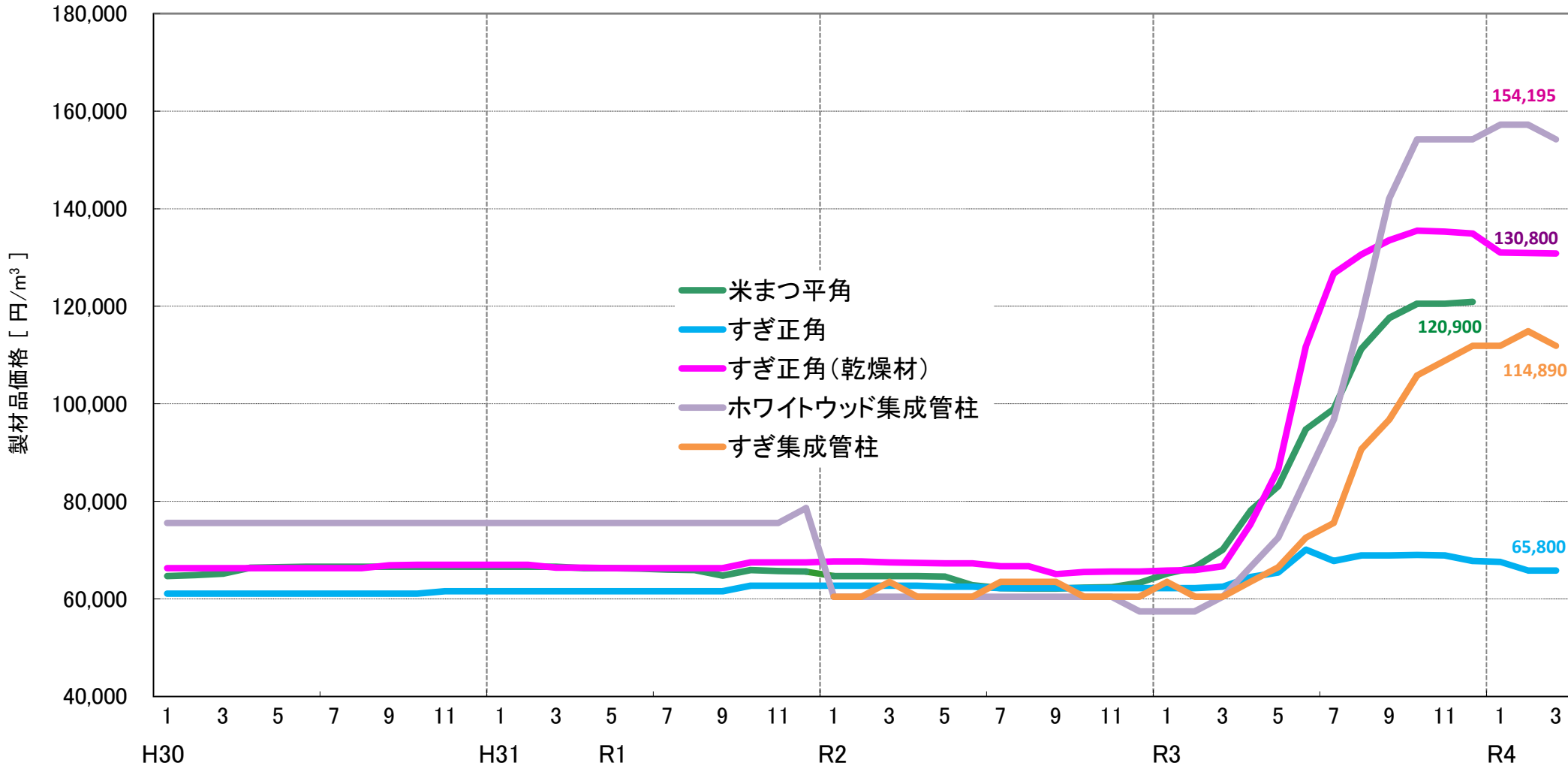
■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較（平成30年1月～令和4年4月）

○ 栃木、岡山は保合。宮崎は弱含み。



■ 全国の製材品主要品目価格の推移（平成30年1月～令和4年4月）

○ 各製品とも弱含み～保合で推移。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

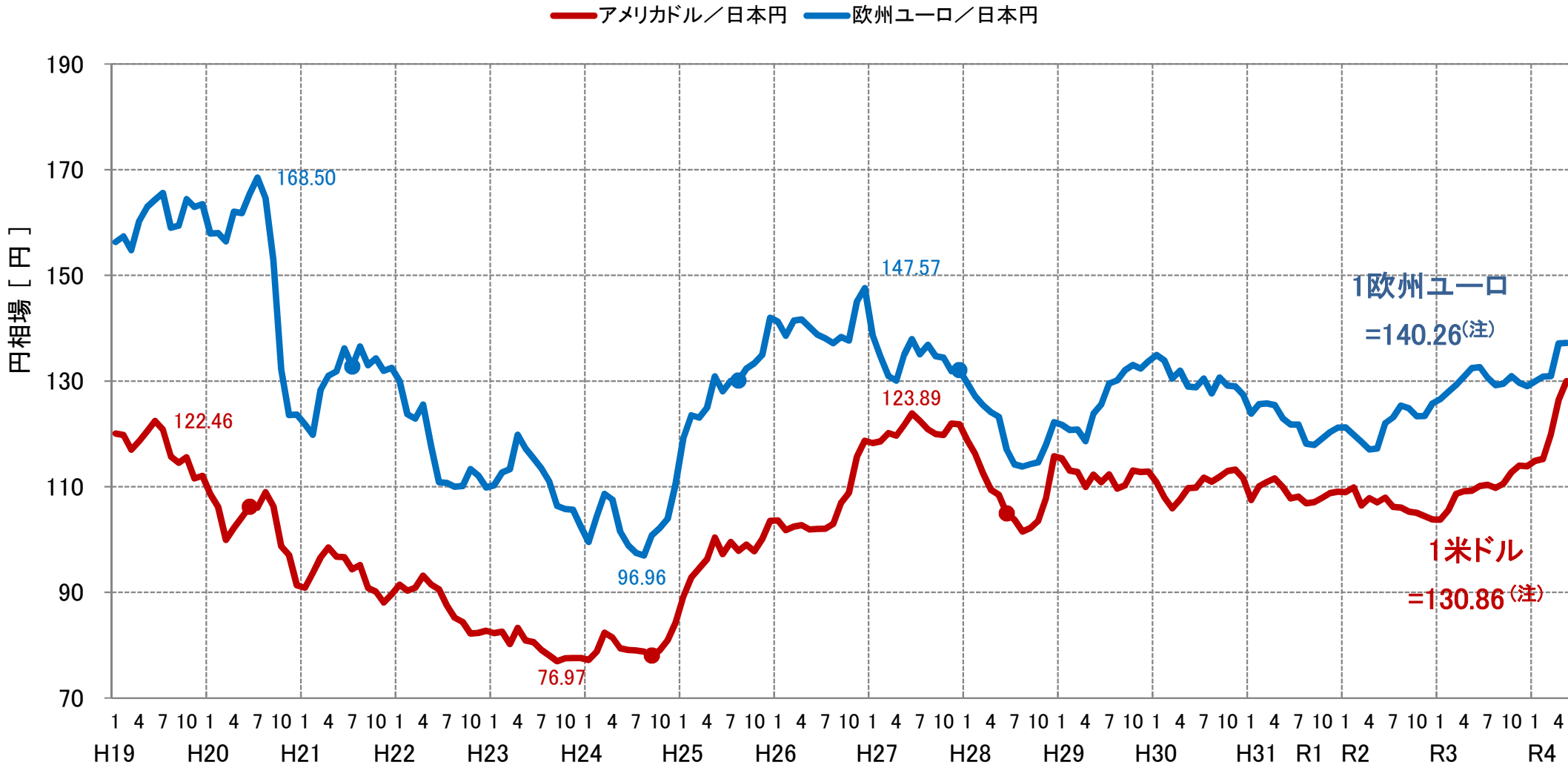
※1 価格は、令和2年1月以降のホワイトウッド集成管柱及びすぎ集成管柱は集成材工場出荷時の販売価格、それ以外は木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格となる。

※2 令和2年1月からホワイトウッド集成管柱は規格及び調査都道府県、調査対象工場の見直しを行い、調査価格も※1の通り変更となったことから、令和元年12月以前の数値とは接続しない。

■ 為替レートの推移（平成19年1月～令和4年5月）

○ 米ドルは、6月3日現在130円台。

○ 欧州ユーロは、6月3日現在140円台。

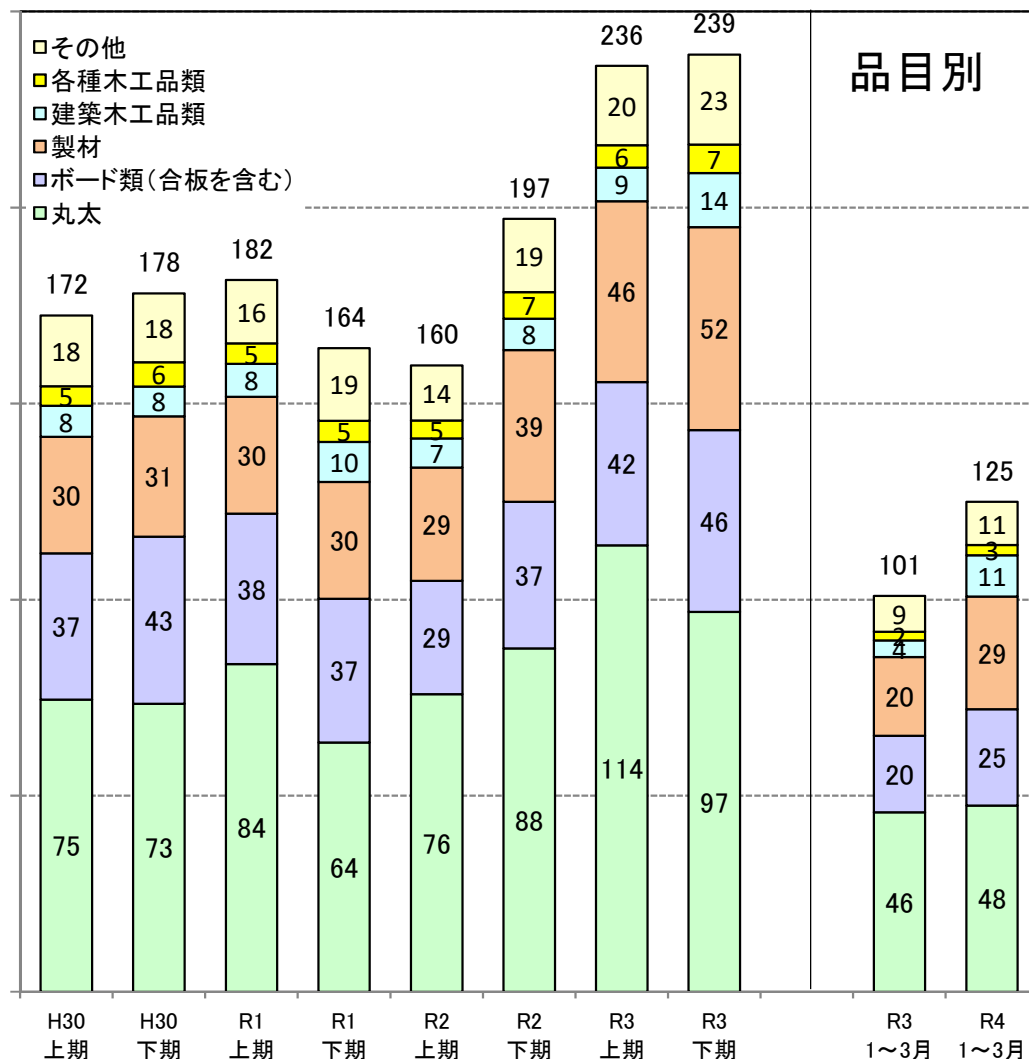
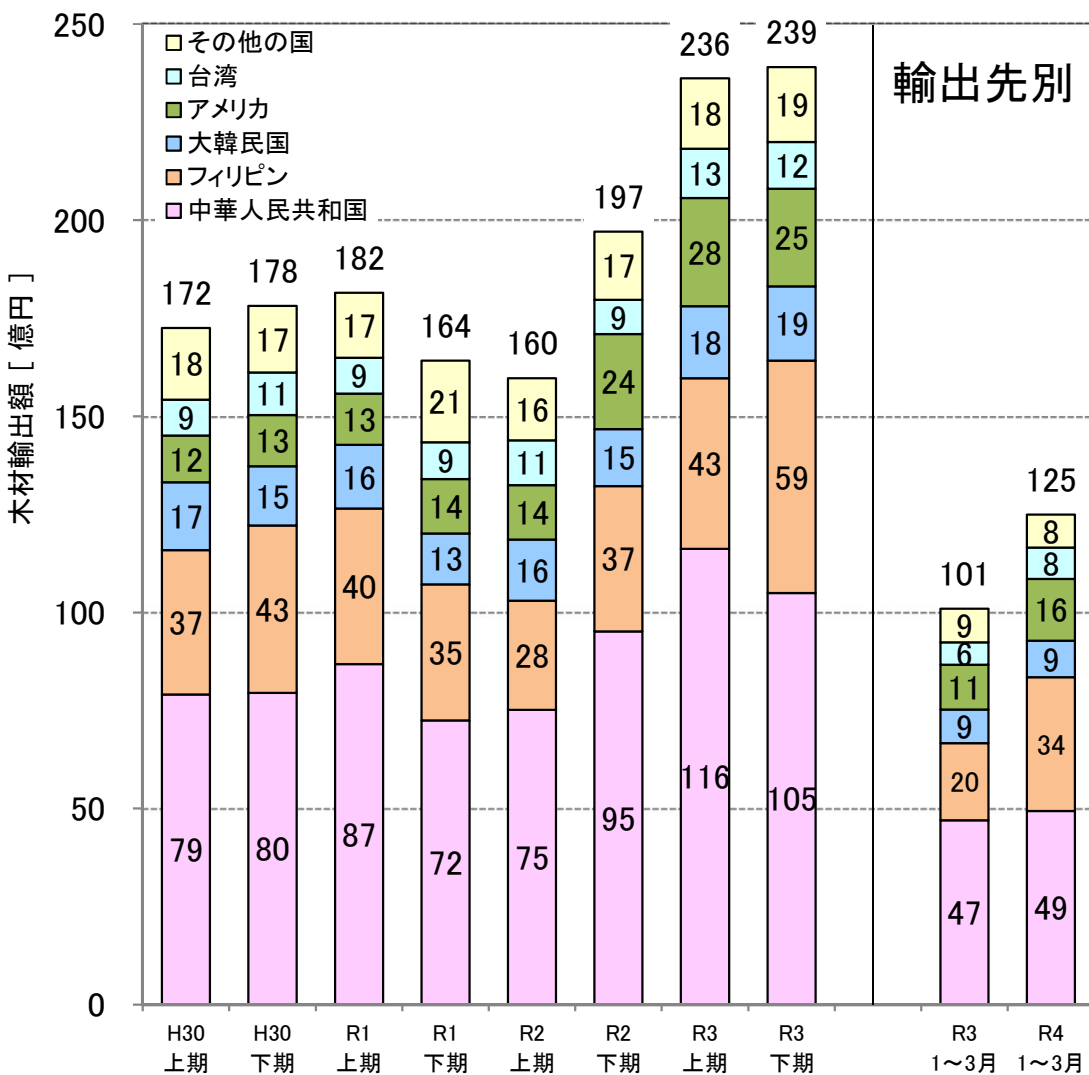


出典：Yahoo! ファイナンス(毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均)

(注)：令和4年6月3日現在

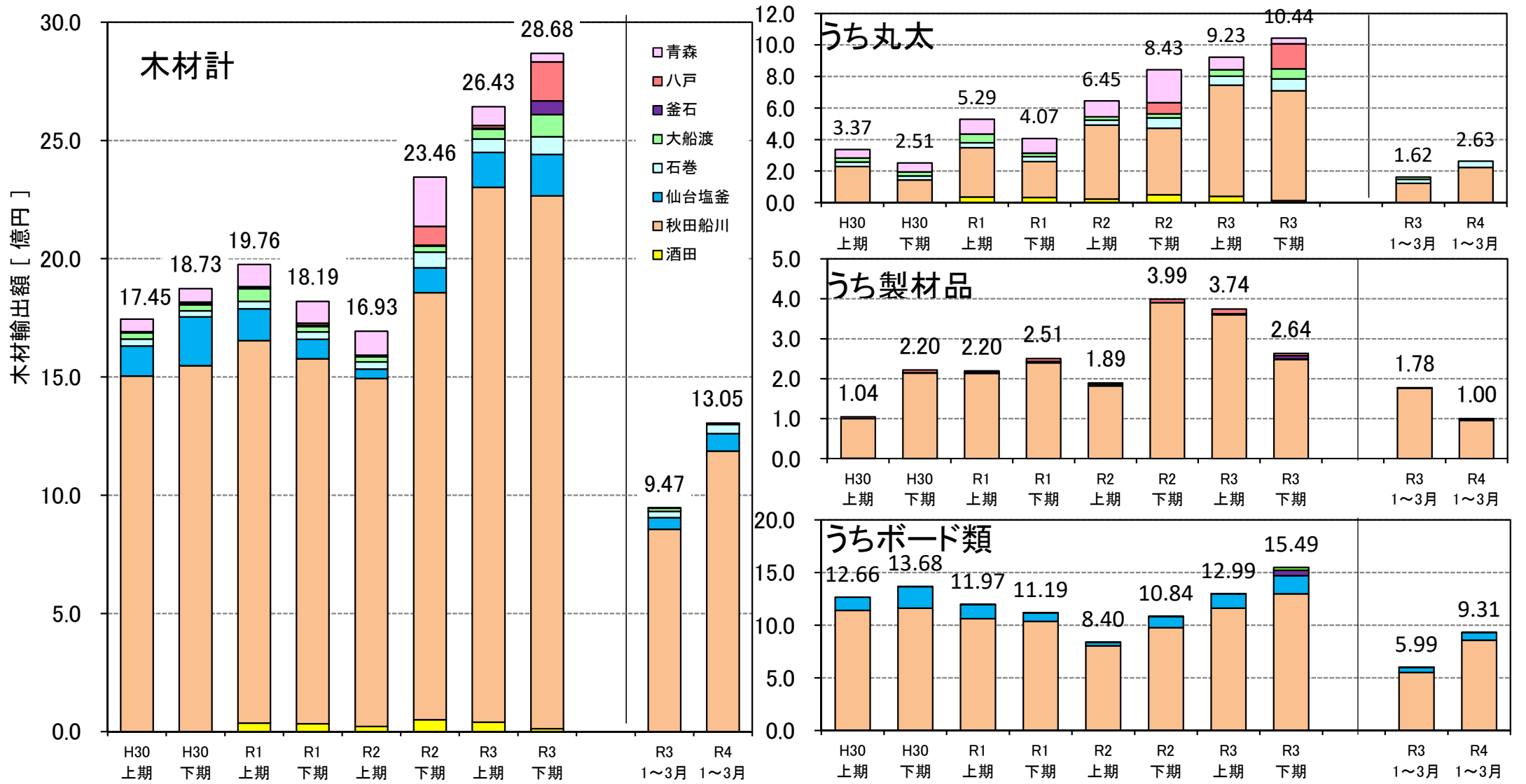
■ 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

- 木材輸出額はR4年1月～3月期を昨年同期と比較すると+24%となっている。
- R4年1月～3月期の主要相手国は、中国、フィリピン、アメリカ、韓国、台湾となっている。
- 品目別輸出額では、丸太が最も高く、次いで製材、ボード類となっている。
- R4年1月～3月期と昨年同期を比較すると、丸太が+4%、製材が+43%、ボード類が+26%となっている。



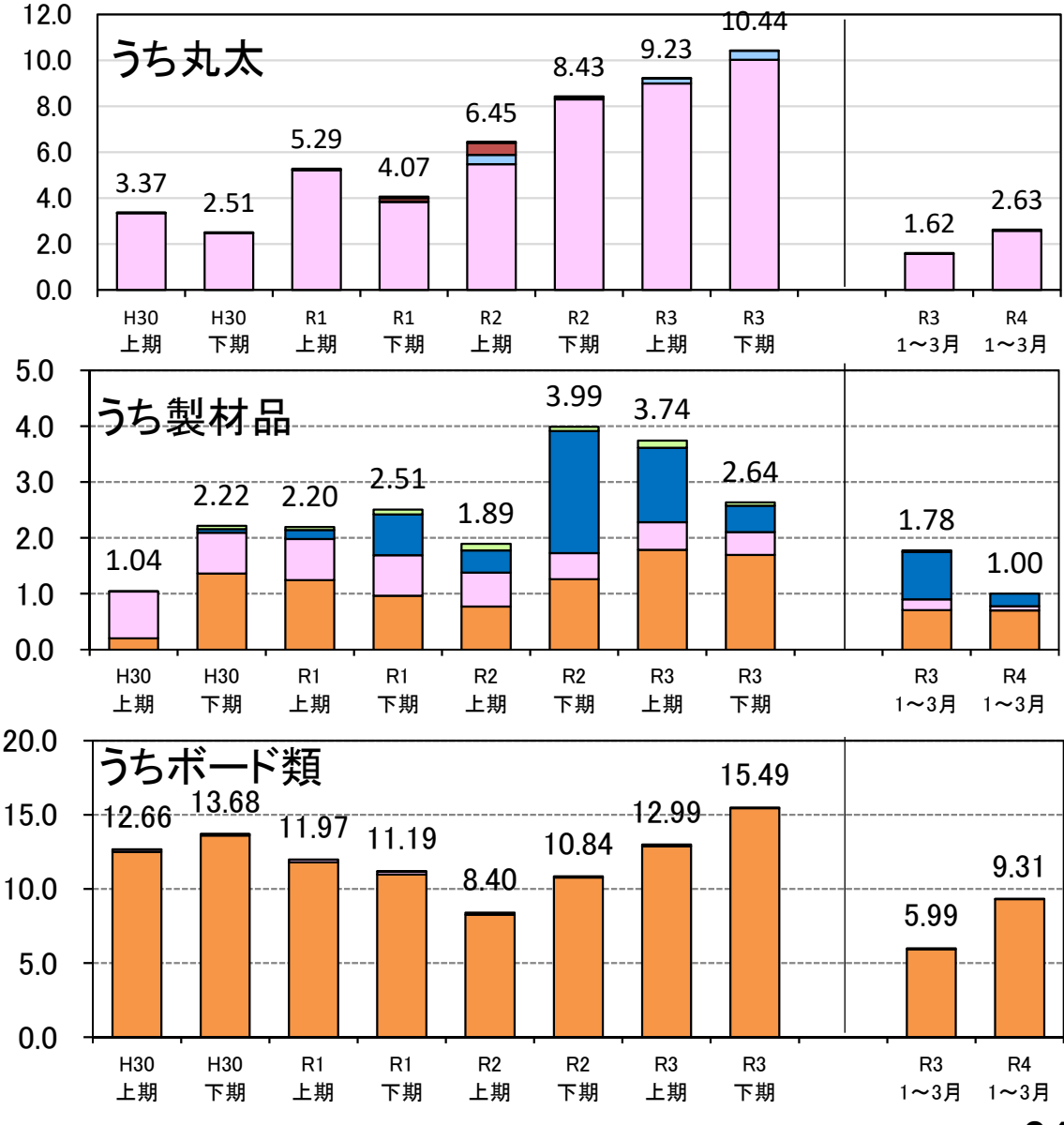
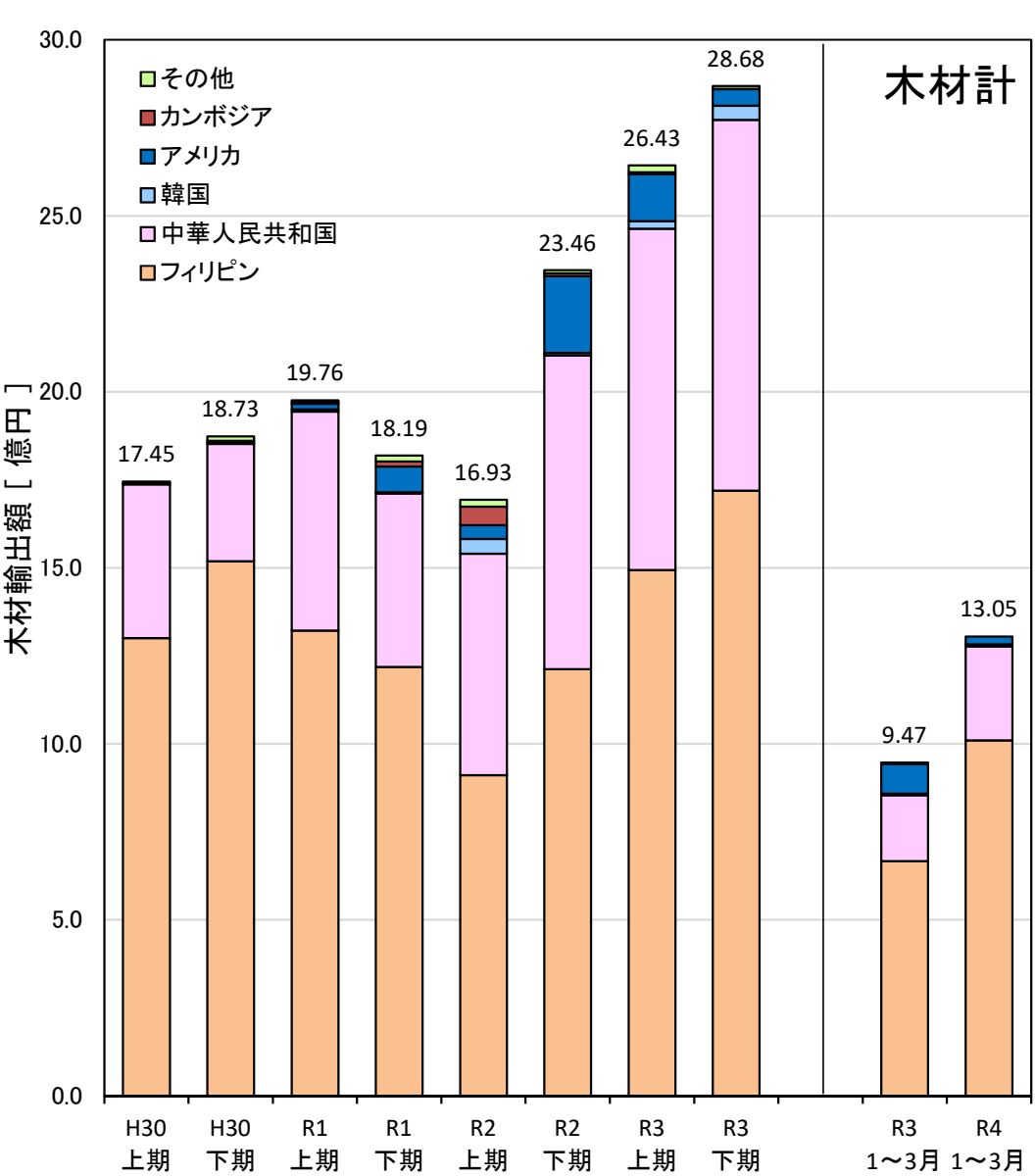
■ 東北5県における木材輸出額の推移

○ R4年1月～3月期と昨年同期を比較すると+38%となっている。
○ R4年1月～3月期と昨年同期を品目別比較すると、丸太が+62%、製材が-43%、ボード類が+55%となっている。



■ 東北5県における輸出先別の木材輸出額の推移

○ R4年1月～3月期の木材輸出額は、フィリピンが最も多く、次いで中国、アメリカとなっている。
○ 品目別では、丸太は中国が最も多く、製材、ボード類はフィリピンが最も多くなっている。



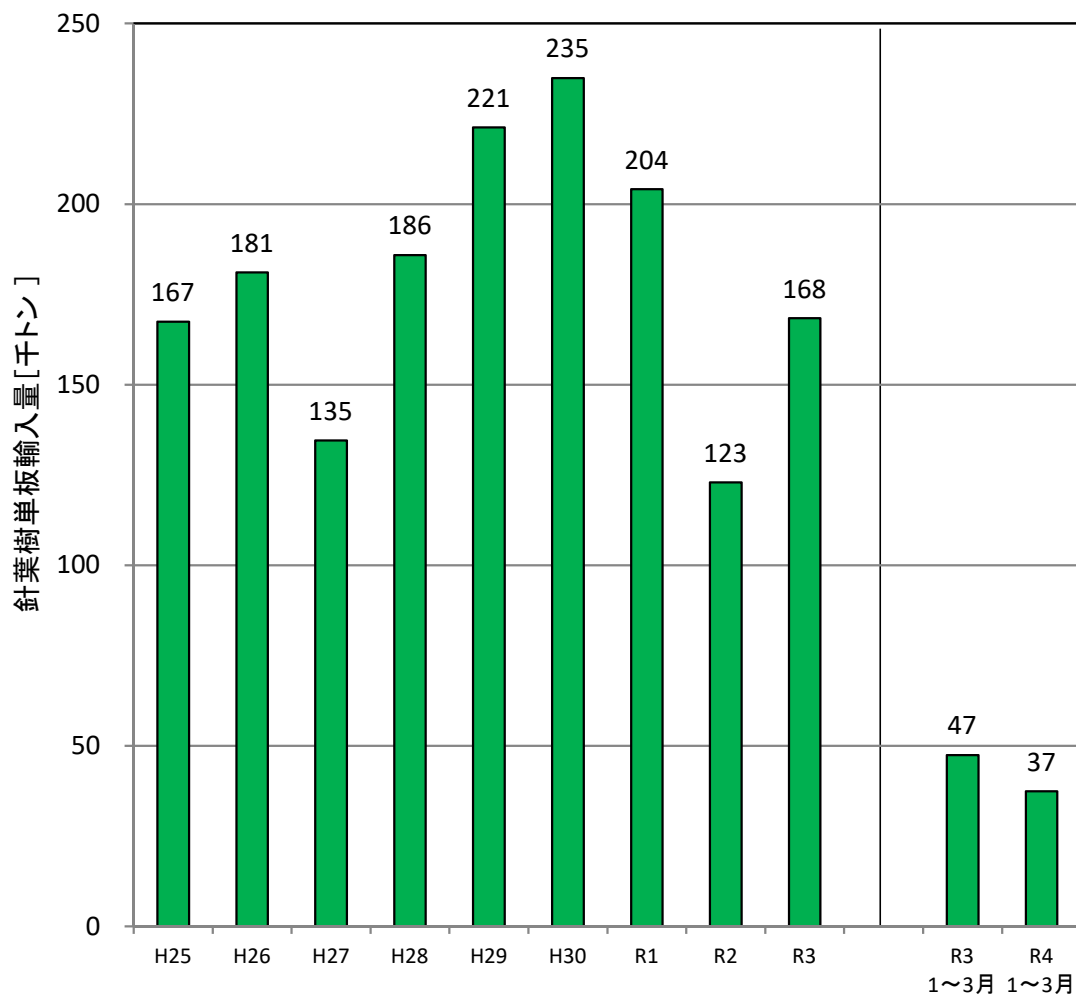
出典: 財務省「貿易統計: 統計品別国別税関別一覧表」

■ ロシアからの針葉樹単板の輸入量の推移

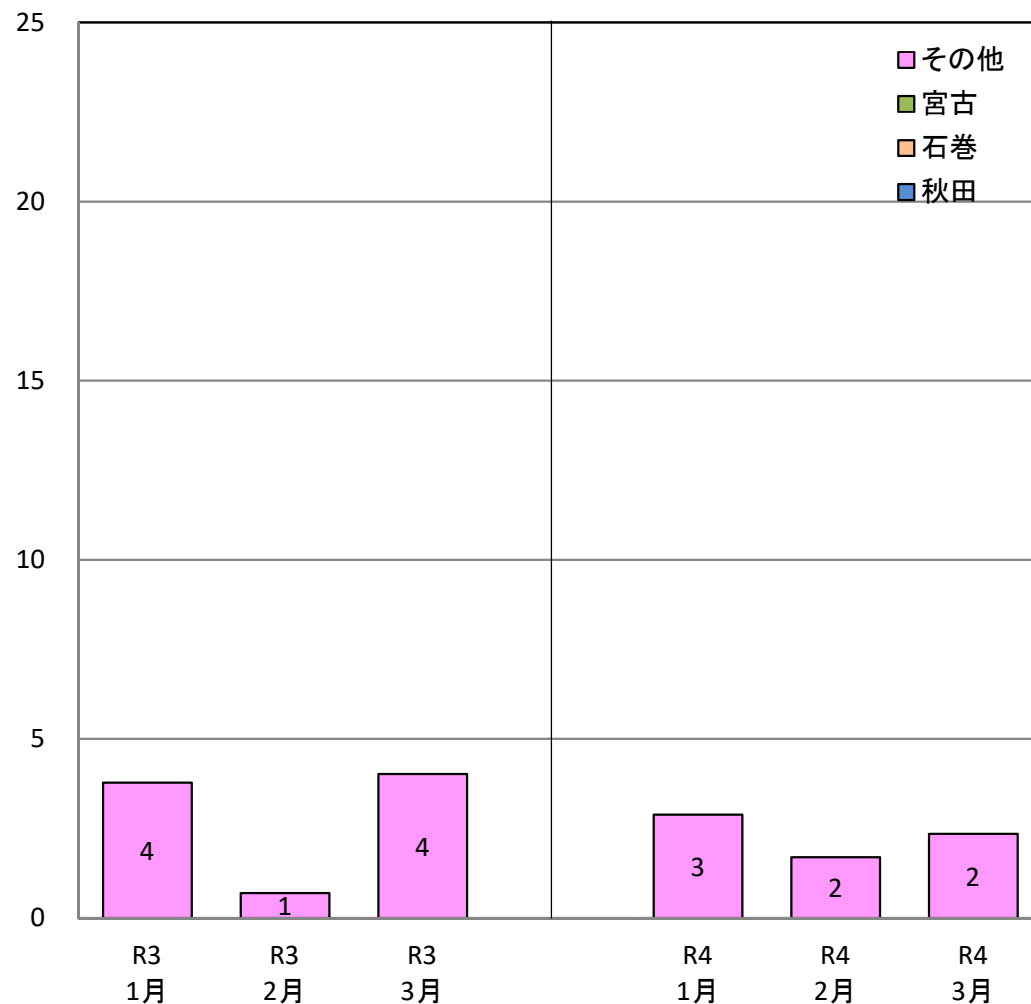
○ R4年1～3月と前年同期を比較すると－21%となっている。

○ R4年1～3月の港別輸入量は東北の港での数量は0となっており、単板の輸入があったのは木更津、新潟であった。

針葉樹単板(ロシア)



月別港別輸入量



PKS・木質ペレットの輸入量の推移

- PKS輸入量は年々増加しており、R4年1～3月と昨年同期を比較すると+27%となっている。
- 主な輸入相手国は、インドネシア72%、マレーシア28%となっている。
- 木質ペレット輸入量は増加しており、R4年1～3月と昨年同期を比較すると+32%となっている。
- 主な輸入相手国は、ベトナム58%、カナダ29%、マレーシア3%となっている。

